

# 第4回RYLAセミナー報告



WORLD UNDERSTANDING  
AND PEACE THROUGH ROTARY



# も く じ

発刊によせて

谷 村 健 助 ..... 1

坂 本 智 元 ..... 4

セミナースケジュール ..... 6

講 演

生きるとは分ち合うこと 岩 村 昇 ..... 7

日本の社会とグループ青少年

指導者の責任 江 橋 慎四郎 ..... 19

リーダーシップの条件 武 田 建 ..... 26

バズセッションより ..... 32

R Y L Aに思う 今 井 鎮 雄 ..... 39


R Y L A寸感 深 川 純 一 ..... 42

参加者感想文 ..... 45

参加者名簿 ..... 105

あとがき 深 川 純 一 ..... 110

発刊によせて



人と出あい  
神と交わり  
愛の火の  
もえるところ



R.I 第 267 地区ガバナー

谷 村 健 助

ライラというのはRYLAのことで、それはRotary Youth Leadership Awardの略であります。その昔、オーストラリアの第260地区で、青少年指導者養成プログラムとしてはじめられ、相当成績がよいので、ニュージーランド、米国と拡がり、遂に国際ロータリー理事会で採択せられたプログラムであります。世界各地でさまざまなやり方で行われています。わが第267地区は第268地区と共催で、代表的な方法で実施しており、成績は極めてよい。私も今回が二度目ですが、ロータリアンの勉強にもなる優秀なプログラムであります。今年は期日が少し早くなったので、少し寒いのですが、こんな環境の良い、設備の整った所は、日本でもめずらしいと思います。開会の時ご挨拶をいたしました。その後多忙にまぎれ、原稿も無くなりましたので、テンポも合いませんけれども、思いつくままに書かさせていただきます。ああいう機会に出くわすことこそ人生の幸福につながるものだと思います。それまでは見ず知らずの青年同志が、親しく会って、自由にご自分の考えているところを話し合うということくらい、その人にとって重要なことはありません。私は青年時代に、学校の勉強や自分のやったスポーツ以外の人生的なお話をかわしたことは殆んどなかったように思います。と言うよりも、話す題材さえ持ち合わせなかったのであります。ただ、旧制高校時代は当時の環境の影響を受けて、一生、精神的な根柢を自然に身に着けたことは事実であります。大学の三年間は勉強以外は

何の役にも立たず、惜しいことをしたと思っております。却って、東京学生寮の生活が一生のためになったと思います。社会人になっても、技術者というものは仕事が忙がしくてゆとりも無く、もともと社交性もなく、話題に乏しい人間でしたので、特に気がついたのはゴルフをやることでした。これなら、勝っても負けても話題に事欠かないと考え、極めて熱心にやることになったのであります。南満洲鉄道株式会社勤務時代に運よく1年半の外国留学を命ぜられ、アメリカで1週間の練習で、自動車の運転免許をとり、僅か400ドルの中古車を買って、待望のゴルフをやって世界をまわることができました。

これで、極めて重要なことに気が着いたのであります。その一は、ゴルフは我われの知っている技術のうちで、一番むずかしいものであります。長年やってもなかなか上達しないのは、正規の技法を素直に受け入れず、器用さにまかせて自己流に墮するからであります。

その二は、あまりスコアの勝敗に拘泥しすぎ、エチケットやマナーを含めた人間性の優劣を考えるゆとりや、リラクセーションを研究する余裕に乏しいことであります。

ゴルフには、このほか大切なことが沢山あります。まず第一にロータリーのいう知合を広めるためには恰好の手段であること。ロータリアンの60%程度の人々がやっていることをみても、親睦の初期段階の交わりとしては、これにまさるものはないでしょう。

私の意図は、諸君にゴルフを勧めているのではありません。諸君が技術なり何なりと、はじめの際は、もしそれが長年やられてきていることであれば、一応、先人達人のやって来た結晶とも言うべき正規の理論なり技法、あるいは標準フォームなどがあるはずで、そういうものがあるならば、一応、素直になって練習してみるのが上達の速い方法であります。ゴルフは、その適例であります。

公式訪問において必ず言ったことは、ロータリーには創造性が絶対に必要だということであり、ロータリーの基礎理論がよくわかった上で、はじめて地域社会にふさわしい創造的なプログラムができるのであります。

次に、その二の方が人生には重要でありながら、ロータリアンでもまだ研究が足りません。勝敗の技術も大切ではありますが、そのもとは精神から来ていることは言うまでもないことであります。

ロータリーは、基本的には、一つの人生哲学であると言われております。何事でも駆け出しで、少しくらい出来たからといって慢心するようではいけません。人間は如何なる場合も、通常言われているリラックスする必要があります。非常にむずかしく骨の折れることでありますが、更にハイレベルにおけるリラクゼーション (Relaxation) の境地を会得することが人生最高の目標だと言ってよいと思います。

その状態に到達することは、極めて困難至極なことで、創造性の極致とも合一するものと考えております。その最も適切なる訓練ができるのがゴルフであります。ハンディキャップ15位にならないと理解しにくいでしょう。

私の体験によれば、どんな趣味やスポーツでも、あるレベルに達するまでやらない限り、人間の最高目標は望むべくもないことであります。幸いに私は、比較的多くの重要な体験をもつことが出来ました。

本日から、待望のライラが始まります。実り多からんことを期待してやみません。

(昭和 57.7.13 記)



## 御 挨拶



R.I 第 268 地区ガバナー

坂 本 智 元

第267地区、第268地区合同でライラセミナーを実施して以来、今回で4回目となり、すでに本セミナーの卒業生も両地区の各方面で活動を続けておられ、このセミナーについての認識も深くなったように思われます。

今回のセミナーに集まれた受講生は、前3回の場合と比較して、現に教育者として活動しておられたり、あるいは青年団とかボーイスカウトの団長であるか、近く団長になろうとしている人々が参加せられ、すでにリーダー的立場にある方々が数多く参加せられたことが特徴的で、このセミナーが多勢の人々に知られていることばかりでなく、心ある人々に評価されつつあることを示しているように思われます。

また今回は、台湾出身の米山奨学生が2名参加されました。3泊4日のセミナーの日程はかなりゆっくりと組まれてあって、余島という瀬戸内であるが、私共だけしか住まない離島という、他から患わされない環境の下での生活は、スケジュールに没頭し経験することに最適の環境であり、講演を開き思索しつつ、受講者自身が自ら学ぼうと志すところをみ上げて行くこの体験は、人々の心に何か特異なもの、何か感銘させられるものを、私共の心に残したように思われます。

ここに集まって来られた人々は、皆それぞれに今日に到るまでの環境も違い、歴史も異なるのでその受け取り方は、それぞれに別個であろう。それでよいの



であって、自分の積み重ねによってそれをどう発展させて行くかが大切なのである。

受講された前途有為の青年各位が各々皆さんの地域の若人のリーダーとして、無限の可能性を有するこの人達に、人間のあり方、幸福な人生への相談相手、話し相手として奉仕して下さることを祈っております。

第267地区から御参加下さいました谷村がバナー、梶浦パストガバナー始めライラ委員会の皆様、小豆島ロータリークラブ会長及び会員の方々には受講者にお話しを頂いたり、お世話を頂いたりいたしました。268地区といたしましても、執行パストガバナー今井直前ガバナーが参加下さいました。今井直前ガバナーはライラ全般の指導者として受講者を指導いただきました。皆様に厚くお礼申し上げます。

又カウンセラーとして若者達のグループディスカッションにリーダーをお勤め下さいました皆様に深く感謝いたします。

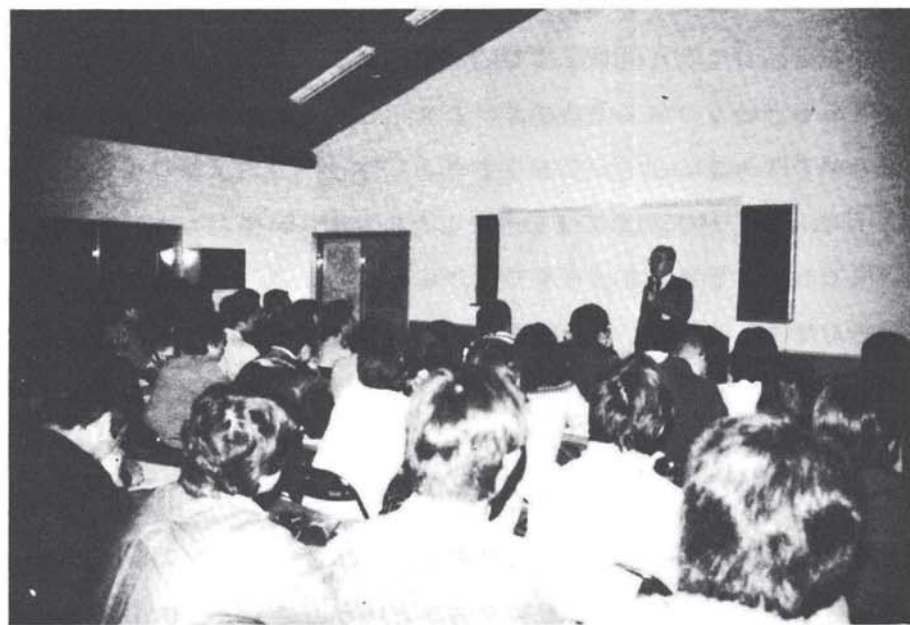
第267地区の皆様と御相談の結果、来年度のライラのお世話を第267地区にお願いし、第268地区はそのお手伝いをいたすことになりました。いろいろなお方の見識と工夫とがとり入れられて行くという意味あいもあって、ライラの進展の為に大変よろこばしい事であります。

Y M C Aの方々は、随分と暖かいお心をもって私たちを迎えて下さいました。本当に素晴らしい美味しいお食事を頂きました。パーティーの料理の新鮮さ華やかさ、全く私共の思いがけない楽しさでした。皆様の御配慮と御親切に御礼申し上げます。

<セミナースケジュール>

	3月19日	3月20日	3月21日	3月22日
8		朝食	朝食	朝食
9				
10		講演 「国際理解」 岩村 昇氏	講演 「社会と青少年」 江橋慎四郎氏	講演 「青少年理解」 武田 建氏
11				
12		昼食	昼食	昼食
1		レクリエーション  ヨット他	バズのテーマリマインド	記念植樹
2			思索の時間	離 島
3			バズセッション (キャビンごとに)	
4	オリエンテーション ライラとロータリー バズのテーマ について			
5				
6	夕食	夕食	夕食	
7	(オープニングパーティ)			
8	キャビン タイム	キャンプ ファイヤー 親睦の夕	フォーラム	
9				
10				

# 演 講



## 生きるとは分ち合うこと



神戸大学医学部教授  
(医学研究国際交流センター)

岩 村 昇

まず「文化」ということについて、天然自然の地勢、そこにある気候風土の中で世紀を重ねて生きて来た人達が、そこはそこなりのいかに生きるかという生活の知恵を積み上げてまいりました。これを文化というならば、どこかの文化が進んでいる。どこかの文化が遅れているということはありません。そこにあるべきしてあるというのが文化でございます。その文化は夫々の地域で違っていて、「アジアは一つならず」であります。

20年前私はネパールに初めてまいりました。当時ネパールは全部自分の足で歩く時代でありました。ネパールでは、ネパール人同志はじめて行き会いますと、「あんたの家はどこか」と聞きます。私も聞かれました。「Japan」と言いますと、「Japanというお前の家からここまで何日かかるか？」と聞かれますので、「えー、飛行機でバンコックで乗り換えて1日半」と答えますと、「なんと！ お前の家はわしの嫁の里より近いのう」と。ネパールでは婚姻関係は大体歩いて2・3日の範囲で結びます。このようなおらかな素晴らしいネパールでも近代化の基礎作りは教育であるというので、学校教育が「だんだん」と村にも広がってまいります。「アプノデーシュ ネパール!! (自分の国 ネパール)」いい意味での愛国心を育てようというので、その結果、若い人達の間では愛国心が広がってまいりました。

昨夜、国境について私の末娘パービトリと話しておりました。国境などな

い地勢だけの地図と、彼女がネパールの中学校で習った国別に色別けしたアジアの地図とといったどちらが本当なのか——と。学校で習ったアジアの地図には確かに色分けがあります。ネパールの南に国境があり、インド側がうす緑、ネパール側はうす茶色にぬられています。ところがついこの間、私共夫婦のネパールの養子養女の中、年令順に数えると、上から2番目、つまり次女のウマがインドの農科大学を卒業しましたインド人の青年と結婚しました。彼等はネパール南の開拓村で住み、夫は農業の指導を、ウマは婦人生活学校を作り、村の子どもたちを預っております。ここでは、朝まだ星をいただく頃、ネパール側で目をさまし、水牛を引張って国境を越え、インド側の田んぼを耕やするという。寝るのはネパール側、起きて働くのはインド側という生活しております。末娘のパービットリもこの間までそこでウマ姉ちゃんと一緒に暮らしていましたので、彼女自身の生活には国境はなかったのです。ところが、うちのネパールの子供達（養子）はネパール政府の発行のパスポートを持って日本に来なければなりません。その時には否応なしに国境ということを知らされます。どうも国境というのはわざわざ国家が学校教育によって植えつける概念で、その概念が国境を越えにくくしているのではないかと思います。それを越えるのは何だろうか——結論から先に申しますと、いつも先進国、その中に日本も入れてしまった富める側に国境があって、先進工業諸国が努力して自分の側にある国境を自分でとり払わねばならないのだということに気づきました。

この程、私はロータリーから世界理解賞を頂きました。International understanding 国際理解だけではなく、World understanding 世界理解ということをつくづく考えました。今や世界は宇宙船地球号の時代であってinternationalではないのだと、世界理解をじゃましているのは案外教養なのかもしれません。

ネパール、インド、バングラディシュ、パキスタンあたりの庶民というか、簡単な英語で我々外国人とつきあってくれる人達と話してみても驚きました。ヒンズー教徒であっても、回教徒あるいはキリスト教徒または社会主義者であっても彼等の日常会話の中でポンポン飛び出すのはアトマという言葉です。これ

だけは英語ではなく、アトマとっております。アトマというのは調べてみますと、インド文化圏に共通語として今も生きておるサンスクリットの言葉であり、霊、靈魂の霊であります。そういう霊中心文化圏でお生まれになったお釈迦様によって広げられました仏教は、ネパールチベットを越え、そして中国大陸を経まして朝鮮半島を経て日本に入ってきて来ますと、同じアトマ・サンスクリットで靈魂という言葉がアタマと音が変わり、それだけではなしに、内容も靈魂の霊から頭へと変って来たようです。

日本では、あそこの青年は頭がいい、有名大学を卒業して将来有望だからうちの娘をぜひ娶ってもらいたいというので、縁談が進むといひますと、南の草の根の仲人さんは首をかしげます。「ドクター、それはちょっとおかしいのじゃないか。とかく頭のいい人は心が冷たいよ」と申します。皆さんの中で、今から人生の伴侶を選ぼうという方は、頭よりはアトマ、靈魂の方に人物評価の力点をおかれることを私はおすすめします。

スライドを通して、

さて、これからスライドを見ていただきながら、「アジアは目に見える自然、気候、風土の中で作りあげた住居や衣類等のかっこうは異なり、ところ変れば文化も変わりますが、根っこは同じだ」という所へお話しを集中していきたいと思ひます。

ネパール、ヒマラヤ世界最高峰のエベレストは、インドがイギリスの殖民地時代にエベレストというイギリス人の殖民地官が遠くから望遠鏡で眺めて、その高大さを発見し、早速クイン・ビクトリアに報告しました。女王から発見者のエベレストの名をその山につけ、エベレストは貴族のはしに加えられることを許されました。ネパールの人達は、「別にミスター・エベレストに発見してもらわなくとも、俺達の山は昔からあそこにあった」と言い、その永遠の存在をサンスクリットでいみじくもサガル・マタ（天国のお母さま）と名づけておりました。1951年までネパールは鎖国をして独立を守り、そのおかげでひどい収奪も受けず、民族の誇りも保ち得ました。スライドで見える三重の塔はあきらかに仏教を媒体として、中国の唐時代の建築の様式がネパールへ入って来

たことが分ります。現在では、その後南のインドから入って来たヒンズー教に占領され、ヒンズー教のお寺であります。北は中国、南はインドという大きな文化を作りあげた大国には含まれたネパールは、第三の文化をつくり上げる可能性を秘めた文化圏であります。世界の歴史をひもどいてみますと、一つの民族が一つの文化を作りあげます。それが爛熟してほろびていく時に、いつも周辺の僻地から小さな種族、小さな民族が第3の文化を荷なって表われます。岩村に言わせると、ネパールは何でも世界一なのですが、21世紀はネパールからだと思っています。

ネパールは、今ではヒンズー王国で、ネパールの王様はヒンズー教の神様の中でビシュヌというまつりごと（政治）の神様の化身だと言われていますが、草の根の人達が一番人気がありますのは、ガネシュという象の頭をした神様です。大変優雅なお顔つきをしておられます。少なくとも30才以後の顔は自分の責任であります。こういう顔でありたいとつくづく思います。日本で宗教といいますが、霞を食っていなければ宗教的な生き方は出来ないように考えられがちであり、私など「日本の生んだシュバイツァ」では決してございません。

ネパールで草の根の人達と一緒に暮しておりますと、「人間というのは、ほっとけば着たい、見たい、食べたいという欲望の追求で、やはり金と力のある者が、金と力のない者をだましたり、ついには殺したりという事をやりかねないことを実感いたします。しかし、その闇の力にどうやって対抗していくか、何とか光を求め、いつでもどこでも、誰れにでも経験できるはずの真実や真理はどうやって伝えるか」というのが宗教生活であると思います。

私が20年前赴任しました時と、今でもネパールは少しも変わっておりません。いや少し悪くさえています。山の上にある病院の外来患者は確かに増え、病院も大きくなり、医者も増えましたが、患者の内容はやはり殆どは小児科で、その又半数以上が栄養失調という。むしろ30年前より増えている現状です。もっときびしいのは結核が子どもの中で増えております。私は折角、皆さんに切手を集めて頂き、B.C.Gを送って頂き、結核の予防をしたはずなのに見事に失敗でした。私は医者として申し訳がない。なぜ失敗したか、今それを反省して

おります。私は日本式に結核を早期診断、早期治療と思い、日本からレントゲン機械を持って行き、機械の使い方、修繕の仕方をネパールの男の保健士さん達に訓練したつもりであります。事実、確かにレントゲンが有効に使われてきました。レントゲンの英語 Xray というのは有名になりまして、草の根のお百姓さん達が「Xray をかけてくれ」といって病院に押しかけてまいります。あまりに押しかけられすぎ、あまりに患者が発見され過ぎて、全部が全部病院におあずかりする予算と人手がありません。ネパールよりも一足先に近代化に入っているインドの経験を見習い、3カ月間の薬を持って自宅へ帰ってもらい自宅療養をすすめました。ところが薬がなくなった頃に病院にもう一度来てくれる患者さんは10%以下です。薬をちょっと飲みますと、確かにきいてきて食欲が出て直ったような気になります。そこで働いてしまいます。とうとう働きながら悪くなってしまったのか、中には死んでしまった人もあるかもしれない。保健婦さんに訪ねて行ってもらおうと思っただけでも、もともと人手が足りず押しかける患者の波に負け、フォローアップのシステムが出来る前に90%の治療、中断という耐性菌患者を大量生産してしまいました。

患者さんの村を訪ねてみますと、20年前よりも又悪くなりました。もともと電気、水道はもとより障子紙すらない深い草ぶさ屋根の暗い穴ぐらのような農家で、一家ごろ寝、1人が出かせぎから金とともに結核菌を持って帰りますとたちどころに一家全滅します。ネパールの経済水準はまだ貧しくて、1人あたりの平均現金収入は1年間1万円か2万円です。その中で税金を納め、授業料を払って子どもを小学校に通わせます。日本円にすると毎月たった200円位の授業料ですが、ネパールの草の根の両親にとっては大変なことです。その授業料で月給をもらった村の先生達は、みな日本製の時計をはめています。電気がなくても聞こえるトランジスターラジオ、バス、タクシー、日本の工業製品がだんだん広がり、とうとう一昨年は日本から17億5千万円という輸入超過であります。

20年間、私ども日本人がネパールで働かせて頂いたおかげで、日本人がネパールで有名になりまして、日本人的生活をネパールの人達が追っかけるように



なっていました。特に経済成長後の日本で生活する今日、岩村がネパールを貧しくし、ネパールを飢えさせ始めました。そして貧困病である結核が一番弱い存在の子どもをよりはげしくむしばみ始めました。

どうやって軌道修正をすればよいのか——。その為のヒントを、18年前ネパールの山の中での出来ごとから思い起こしました。山の奥深い村で、1人のお婆さんが倒れていました。何とかして病院に連れて帰りたくとも、救急車が走る道路も、連絡の電話すらありません。困っていたところへ、1人の旅人が通りかかり、このお婆さんをまことに気軽に背負ってくれ、私と一緒に3日間山を越して病院に運んでくれました。私が人夫賃を払おうとしますと、「俺はこの3日間、金もうけの為に、お婆さんをおつかいだんではない。俺には若さと体力があり、ふだんは人夫としてそれを売り食べているが、この3日間だけは若さと体力を失くしているお婆さんの為におすそわけをただけだ」と言って、お金を取らずに帰って行きました。

「生きるとは分かち合うこと」——ネパールやアジア諸国が日本の工業製産品を買ってくれたおかげで、今日の日本があるのですから、やはり分かちあいたい、せめて10%はアジア草の根の人達にお返ししなければと思いました。

7年前、当時私の役割りはネパール政府に頼まれ、ネパールの男性保健夫さん達の研修指導をしながら山中の巡回診療をしておりました。山の中で私のお腹が痛み出し、粘液と血液のまじった下痢便に発熱と3拍子揃いますと、ネパールの優秀な保健夫さん達は、「細菌性赤痢」とちゃんと診断は下してはくれましたが、薬は使いはたしたあとでどうしようもありません。教官殿が死んだら大変だと、往復走っても3日はかかる一番近い診療所に薬を取りに行ってくれました。私は腰が抜けて、村長さんの家の軒下で寝ておりました。そうした私をみて村長さんは「Doctar, you are use-less!」と言います。お前さんは、自分の病気を診断しても自分で直せないのか? やくたたずじゃのう! というわけです。「そんな村長さん、抗生物質が無うてはこの病気は直おらん!!」と申しますと、「うちの村ではこれ位の病気なら抗生物質がなくとも直すじいさんがいる」と、私を肩にかついでつれて行ってくれました。さあ大変で

す！ ネパールはヒンズー教の国、カースト制度がきびしく、そのピラミッドの頂点にある偉い村長さんが、いくら客人の岩村とは言え、「自分が肩に背負ったのでは世間の目がうるさかろうに」と私が村長に申しました。「お前はネパールに10数年も生きて来てまだ分らないのか！ お前はもう日本人でもない、医者でもない、わたらの仲間だ!!」と村長はいったのです。私は全く目のウロコの落ちる思いがしました。今の今まで日本はアジアの先進国、お金持、そしてそこからやって来たお医者様とかつぎ上げられている時には、さっぱり分らなかった草の根の人達の生きる営みを今こそ教えて頂きました。どうしてそんなラッキーなことになったのかというと病気をしたからです。医者のくせに、薬がなくては自分の病気を自分で直せないようなあたりまえの人間に返して頂いたからこそ、あたりまえの人間の生活が分ってきたのです。村長さんは私をかついで、まじない師、民間療法をする老人のところへ私をかついで行きました。「私の病気は細菌性赤痢で、そんな方法では直らない」と訴える私の口を無理やりあけ、まじないをふきこみ、太鼓をどんどんたたかれポーッとしていました。そのすきに汚ないゴミの浮いたくさい草の汁を飲まされ、それでぐっすり寝こみました。やがて目が覚めて気がつきました。元鳥取大学医学部助教授、医学博士・岩村昇の赤痢は直っておりました。まず熱は下がり、下痢も腹痛も止っておりました。これはしめた！と思ひ、研修生が運んでくれた抗生物質をわざと飲まずに、半分彼等にかつがれながら5日かかって首都カトマンズまで歩き、その国立中央病院にしかない中央検査室で私の便を自分で培養してみたところ、赤痢菌は1匹も残っていませんでした。これはしめた！と思ひました。薬草です！私の飲ませて頂いたのは——。それから私は薬草の研究にとりつかれましたが、当時45才の岩村では少し遅すぎました。それで私はネパールの若い人達に望みをたくしました。

今から申し述べますことは、私事にわたり恐縮ですが我慢して聞いて下さい!! 私と妻（お母ちゃん）は、愛し愛されて結婚しましたが、神様は私たちに愛の結晶を恵んでは下さりませんでした。そこで、うらみつらみのお祈りをしておりましたら、こういうお祈りでも長年続けていると、ちゃんときかれるという

ことがわかりました。ネパールに行ったら、この日本生まれの子どものないお父ちゃん、お母ちゃんのところへ、ネパール生まれの結核や事故、そして赤痢などで両親を失った子どもたちが次々と送り届けられ、20年間で男の子6人、女の子6人併せて12人という子福者にして頂きました。長女はプルネマは12才の時両親を結核で失いました。当時8才のウマ、6才のミラの2人の妹、4才のダンと生まれたばかりのヴィジェをつれて3日間歩き、国境を越してインドへ行き、妹や弟を孤児院に預けて自分は働きながら学べるという私どもの病院に、見習看護婦としてやってまいりました。そして立派に看護婦となり、村の診療所に赴任しました。そして生き生きと働きはじめました。そのネパールの村に日本のヤングが簡易水道づくりのワークキャンプにやって来てくれました。友達アルバイトをしたお金でスキーに行っているというのに、そのワークキャンプー達は、アルバイトでかせいだお金でネパールに協力奉仕に来てくれたのです。村にはおかげで簡易水道が出来、今まで水汲みに谷底まで往復2、3時間ついやしていた村の娘さん達が労働から解放されました。放っておきますと、お金と暇ができると男は飲むか打つか、女はおしゃべり、つついウワサ話がお互いを傷つけ合うというのは、所変っても品変らず、人間の生きざまの暗い面は全く同じです。この人達にどのようにして光を当てたらよいのか——、娘は読み書きができますので、自分の勤務の暇を見つけて、学校へ行けなかった貧しい娘さん達に成人教育をしはじめました。そこへ、又日本の女性ボランティアが来て下さり、編み者や刺繍を教えて下さいました。製品を町へ持って行き、売り上げを持ち帰り、共同作業をした村の仲間にお金を配って歩く共同組合の会計主任の娘さんは、ついこの間まで村で一番評番の悪かった人でした。彼女は小さい時に両親を失くし、村で使い走りをしてながら自分でかせいで生きて来ました。お金さえたれば学校へ行けると思って働いているうちに20才になってしまいました。この娘さんはたった2カ月で読み書き、そろばんが出来るようになったばかりではなく、複式簿記がつけられるようになりました。なぜなれば、彼女には自分の生活のためではなく、自分の10%の時間をささげて、ボランティアとなるチャンスを与えられた、そして共同組合の会計

主任としてただ働きで村の人達に喜んでもらえるという喜びが出来たからです。勿論、村人達の評判もよくなります。このようにしてネパール草の根の人達自身のボランティア活動で自分達を貧困から解放し、自分達を飢えから解放するという自発自立のボランティア活動が2千数百カ村の中のほんの1、2の村で起きております。そこで生き続けているのは日本人のボランティアがまいた種からの芽生えです。桜井さんという栄養士さんがネパールへやって来てくれました。折角BCGを打っても免疫を作る材料になる蛋白質が足りないために免疫が出来ず、結核に冒されてしまいます。しかも、ヒンズー教徒は、牛肉、回教徒は豚肉が宗教上タブーであるネパールで誰れにでも食べられる大豆の蛋白質を何とか取り入れたいと私は桜井さんに頼みました。9カ月雨が降らない乾燥地帯でいろいろな苦心の結果、きな粉の活用を思いついてくれました。

ネパールには、昔からとうもろこしを火でいって石うすでころがすとうもろこしがしという食習慣があり、これとよく似た大豆蛋白のきな粉は、抵抗なくネパールの人達に受け入れられました。桜井さんは、同じ女性として女性の悩みがよく分ります。栄養失調の赤ちゃんを連れてお母さんと一緒に、ほったて小屋に栄養教室を作りました。いつの間にか、この草ぶき小屋がNutrition-rehabilitation center という英語で有名になりました。

センターと呼ばれて、想像するようなビルディングではなく、草の根のお母さん達の台所の造りと全く同じ草ぶき小屋であったことが、普及した第1の原因です。センターで習ったことは、自分の家の台所でも出来るからです。(センターで身につけたことは、私とあなたの生活の現場で明日から重践できなければ何もならないのです)

総合的な考え方、生活の現場で生きていくあり方、それをボランティアとしてmotivateするような人格を草の根では「あれはいいアトマ(霊)の持主だ」といいます。

草の根のお母さんたちのスバラシサは、ヒンズー教、仏教、回教、キリスト教、何教徒であっても、あるいは中国等、社会主義国に行ってみましても、凡そ草の根の母達は、皆子どもは天からの授りものだと信じていることです。大

事な授かりものをコインロッカーの中に入れて殺してしまうような恐ろしい事故は幸いにして、今、宇宙船地球号の乗組員が20%前後しか住んでいない先進工業国のしかも土と水と緑を失ってしまった都市文明の中でしか起きておりません。（くれぐれも日本中が小さな東京になってしまわないように、あなたの生活の現場で水と土と緑にまみれた生活を取りもどさなければなりません。）

今日も、ネパールで結核対策の仕事が続いておりますのは、日本の各地のロータリーの皆様が自分のポケットマネーから寄付をして下さり、ネパール人によるボランティア活動の結核予防会の設立、運営の手伝いをして下さったおかげです。そして、又皆さんが切手を集めて下さることにより、BCG接種がみごとに続けられています。これは強制ではありません。自発であり自主であります。自営であります。そして目ざすところは自立であります。桜井さんがそと手を貸したことによって、草の根のお母さん達は、自分で作ったトウモロコシコガシ、小麦コガシ、大豆コガシ（きな粉）の三者混合栄養粉食で子どもを栄養失調から守りました。そして、そのお母さん達の中からボランティアが生まれました。

人間はもともと単純な体験者ですから、人の憂いを我が憂いとする優しい心は、自分の体験から出たものでなければ理解できたつもりでも、実行には移しにくいものです。切手運動の中から優しい心が育ちました。どうか幼稚園、小学校、せいぜい中学校までに実行をはじめして下さい。小さい時に自分の為ではないアジアのお友達の為にということで、自分で具体的に手先を動かして切手を集めるということでもって、人の憂いを我が憂いとする心の下地が出来ます。そんな中から桜井さんのようなボランティアが出てくるのです。今の日本でならあなたと私が今日から10%ささげる。それを10人分持ち寄って、この中から1人の仲間をアジアに送り出せますということで、今日ここに一つのmissionが出来ます。

もともと、ロータリーにしても、YMCAにしても、ボーイスカウトでも、初めはそのような仲間の持ち寄りで出来たのです!! 今必要なのは、そのようなmotivationではないかと思えます。私とあなたが、1人1人の創設者に

なることです。

先日、カンボジア難民キャンプの後をどうするかという国連の会議に引っぱり出されました。カンボジアの賢いお母さんが代表でこういう発言をしました。「確かに緊危の時には、世界中からの援助物資がありがたかった。空っぽのお腹を持って行きさえすれば、給食センターであてがいぶちが頂け、裸でふるえている体を持っていけば、日本から来た古着をおしきせして頂いたが、緊急の時が去った今になっては、それだけでは駄目だということがわかった。見て下さい、家の娘はもう7才にもなったのに台所の手伝いが全然出来ません。カンボジアの村が平和であった時には、5才、6才、7才と母親の台所姿を後から見て、7才にもなればちゃんと手伝いが出来るのが普通でした。今、平和になったカンボジアの村へ帰って、台所を作り、村を起こそうという時に、母から娘に伝えなければならない生活の知恵のくさがりが断ち切れております。今から必要なのは、自分の人生を自分で作っていく development の方法です」と。では、development とは何でしょうか。開発とは何でしょうか。

バングラディッシュに戦争が起きました時は、難民が出たという話を聞いて、私はネパールの草の根の人達と一緒にバングラディッシュに出かけて行って、「我々よりもっと困っているバングラディッシュの難民を助けよう」と、給食センターを作りました。ところが世界中から援助をもらい過ぎたため、上は大臣から下は給仕に至るまで、もらい得の乞食根性になってしまったと評判が悪くなり、援助が来なくなりました。

給食センターが出来た村の子どもは、ドラム缶の粉ミルクが来なくなったので、飢えて死んでいきました。ところが辺りな村で、なまじっか給食センターが出来なかった所は、もともと自給自足でやっていたので、生きのびました。インドの一部の農家では、同じような自然条件の元で、見事に裏作をしています。井戸を掘り、その井戸の水を汲み上げるのに、只の草を食って働いてくれる雄牛を使って水車をまわしております。日本製のディーゼル水上げポンプは一部のお金持ちしか維持できません。

バングラディッシュの人達にも、インドでやっている事だから出来るのではな

いかとはげまし、手押しポンプを使ってこの水車方式で、ほんの一部であります  
が裏作ができるようになりました。私達は、岩村昇もあなたも、ネパールの  
草の根の人達も、みんな自分の人生は自分で責任が持てるように、神様から秘  
められた可能性、Talentを与えられております。

Talent のもともとの意味は、マイク片手に歌う可愛い子ちゃんではなく、  
天分であります。それを開発するのは、まず夫々自分の人生は自分で責任を持  
てるように 10%づつを分ち合う!! 特に自分よりも困っている人と分ち合う。  
天い自ら助くる者を助く——これであります。“生きるとは分ち合うこと”

夫婦の間でも、親子の間でも、理解しあうには努力がいります。国際理解の  
為には、お互いが違っているのだという現実を素直に認め合って、その上でお  
互いに10%を持ち寄り、分ち合って生きて行くしか他に道はありません!!

いつまでも創設者の精神を学ぶだけでは、明日を作る君達の役割がはなせま  
せん。一人一人が創設者になること、一人一人が詩人になること——それが自  
分自身の若さを保つ秘決でもあると私は信じます。

57年 4月 14日  
神PYMCA内  
コカトコウ委員会 殿


このたびはご浄財をいただき誠に  
ありがとうございます。おかげさまで  
本年7月にはネパールから2人、フィリピン  
から2人計4名通リ研修生をお迎えする  
運びとなりました。どうぞお見守り下さい。  
今後とも深くご理解のたまえを祈り  
くたさるようお願い申し上げます。

敬具 岩村昇

¥16,180..... No. 1494

上記、確かに領収いたしました。

〒650 神戸市中央区元町通5-2-3  
甲南サンシティ元町ビル(078-351-4892)  
PHD 協会  
郵便番号神戸9-23625 PHD 協会事務局



RYLAセミナー当日、参加者の  
方々が自発的に集められた募金  
をPHD協会にお贈りしました。

## 日本の社会とグループ青少年指導者の責任



鹿屋体育大学学長

江 橋 慎四郎

皆さんに話しを聞いて頂くことで、私は今、非常に緊張しております。

私自身の緊張をときほぐす意味で前置のお話をさせていただきます。勿論、緊張するという事も大切ではありますが、緊張しすぎてうまくいかないこともあります。

今からほぼ30年前、この余島での今井先生との出会いが、今日私がここへお招きを受けたことにつながっております。当時私は、全日本学生キャンプで、高校生とともに小豆島に来ておりました。こちらでキャンプをしておられた今井先生と我々のキャンパーとの交歓会という事で私どもがやってまいりました。交歓会というのは表向きの名目で、実は当時風呂もなかった私どものキャンプでしたので、この余島で水泳をさせて頂こうというのが隠れた目的でもありました。しかしなにわともあれ、この今井先生との出会いが、その後の私と今井先生との交友のきっかけを作ったのも事実であります。「この余島が新しい近代的設備で衣がえしたから一度ぜひ」とお誘いを受けつつ、お互いの忙がしさに今日になっておりましたので、今回のセミナーに伺うことができ大変うれしく思っております。

私はキワニスクラブの会員であります。ロータリークラブ、あるいはライオンズクラブと対比するというのではなく、夫々に異ってはいても、共に奉仕を目的の一つとしていることに共通のものがあると思います。私自身、個人的に

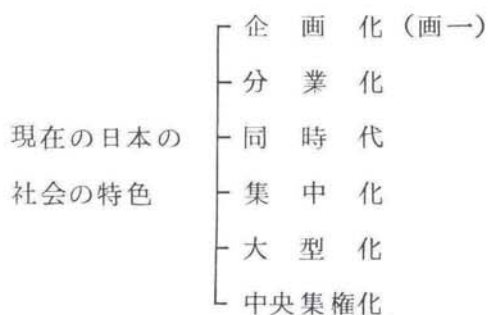


は社会に奉仕をするといっても、なかなか力不足でなにも出来ませんが、せめてキワニスクラブの一員としてなにか出来ればと思って入っております。

共通の目標の自主的団体のお招きでありますので、よろこんでお邪魔させていただきました。

## ◎ 現代社会の特色

本題に入りまして、日本は外国においても現在大変注目されている国の一つであります。よその国の人が日本及び日本人をどう思っているかを学ぶ事が将来の日本にとっての示唆を与えてくれるものであると思います。トフラーは日本の社会を工業化社会と言っており、現代工業化社会の特色を次のように述べています。



日本の社会は、まさにこれらと共通するものをもっており、さらに日本の社会は閉鎖的な社会であるといえます。特に外国人に対しては閉鎖的です。オープンな社会と比較すると、村八分のような事もあり得ることです。このような閉鎖的な日本は国際社会の中で孤立化の危機に見舞れる恐れがないとは言えません。特に経済問題は孤立化の危機の一つだと思います。自分達の身のまわりは平穏であっても、広い視野で見た場合、不安な状態であり、現実にはアジアは一つになってはいません。

今後、若い人達がこういった問題をどのように切り開いて行くかが大きなポイントとなるでしょう。直接にかかわりがなくとも、一つ一つの問題を解決していくことが、やがてこれらの課題の解決にも結びつきがあると思います。

## ◎ あるセールスマンに学ぶ

1963年、私がアメリカで苦学をしていた時に聞いた、大変印象の深かった話しを御披露したいと思います。

それは、フランク・ベットガーというあるセールスマンが、成功のための13項目として、自分自身が目標を考え、それにむかって日々努力をし、なおかつ自分が感銘を受けた言葉、詩、あるいは考え等をカードに書き込みをしているのです。その13項目とは、次のような事項であります。

### 1. 熱意

熱意をもって行動できるように自分を追い込め。

今はさめている時代と言われますが、若者とともにある目標にむかって努力しておられる皆さんでも、やはりともすればくじけやすい時があるのではないかと思います。熱意とは熱心に行動していくことによってその熱意がたかまっていくものであり、頭の中でいろいろ考えただけでは情熱はわいてこないのだと彼はしています。

### 2. 順序だて

順序だてというのは、皆さんが行動なさる時でも諸条件を考えてなさると思いますが、セールスに関してでも、何でも売り込めばよいというものではなくて、どういう順序でやればよいかという事を前もってきちんと考えた上で行動しなければだめであると述べています。

### 3. 他人の興味にもとずいて考えよ

物を売る時、お客さんがどういう事に興味をもっているかを知らなければなりません。これを皆さん方に置きかえてみると、グループの仲間の1人1人がどんな事に興味と関心を持っているか、あるいは今何を求めているのかを知り、そういう事に耳を傾けてみる事が大事なものは、まさにセールスマンと同じ事になるのではないのでしょうか。

### 4. 質問

セールスマンはつい自分で沢山しゃべりすぎてしまう。相手に質問し、その質問からいろんな事を引き出して行くことの大切なことは、リーダーシッ

プにも共通でありましょう。

#### 5. 鍵になる問題

質問をする事によって、何が一番大事な鍵になる問題なのかを見つけ出すことが大切です。

#### 6. 沈黙

行動するばかりではなく、静かに沈黙して考えてみるという事も大切なことです。皆さんの昨夜のファイアーもそれであったと思います。忙がしければ忙がしいほど沈黙とか、静かに思うとか、考えることが大事なことであると思います。

#### 7. 誠実さ

#### 8. 自分自身の仕事についての知識（理解）

自分自身なにをしなければいけないか、あるいはグループワークについての基本的な事項を機会あるごとに勉強する態度はなくてはならないものであると思います。

#### 9. 感謝と賞讃

#### 10. ほほえみ

#### 11. 名前と顔を覚える

#### 12. 奉仕と期待

#### 13. 行 動

唯単に思いわずらうばかりではいけないのであって、考えた末に最も良いとその時点で信ずる道を行く事が大切。

以上のような 13 項目を見つけ出したのでありますが、なぜ彼がこれを見つけ出したと申しますと、印刷工から身を起し、日々努力を積みあげた結果、アメリカでも今日まで名を残すようになったフランクリンの自伝を読み、フランクリンの努力に傾倒し、そして彼は彼なりの 13 項目を考え出し、これを実行しようと努力をした為に成功したという物語りがあるわけです。

そういう話を聞くと、戦後ややもすると、こういう徳目主義というものは、やや軽べつ視されたり、価値感の多用化という事が言われたりしました。しか

し、変化のはげしい未来を予測し得ない時代になってはいますが、こういう先人のあとを学ぶことも大切ではないでしょうか。例えば13項目をそのまま実行するとか、全部を暗記するとか言うのではなく、その人なりに目標にむかって努力を積み上げることは指導者として大切だと思います。

フランクリン自身は13の徳目を表にし、日々自分の行動をチェックしていったと言います。グループのリーダーとしてお1人お1人がいろんな目標を見つけられ、その目標にむかって努力して行って下さる時、このような事をどこかの片隅で考えられるのがよろしいのではないかと思います。青少年とともに核心となって歩いていく道しるべとなるようなものを、ぜひ皆さん方なりにさがして頂けたらと願っております。皆さん方のお仲間が恐らく同じ目標に向かって歩むところに、新たな喜び、新たな決意、生きがい、新たな道が開かれて来るのではないかと私は思います。そして昨夜、海辺からファイヤーの場所へ移動していった暗い道に巡礼した時に、一つ一つの項目があった事を思い起こしながら、フランクリン自伝（岩波文庫）をぜひ読んで下さい。今度読んで下さると漠然と読んだ以上に皆さん方の新しい決意や道が開かれてくるのではないかと思います。

#### ◎ グループ青少年指導者の役割

指導者の資質、役割等は色々な方によって語られ、リーダーシップの条件やグループワーク等のいろんな本も出ていますので、そういった事を参考にして頂けばよろしいわけですが、私は又一つ違った本を見て来ました。それは、米国海軍兵学校の指導者教本です。

今、平和な時代に軍隊の例など参考にならないかもしれません。しかし参考にならないからあえて私は選んだわけです。戦争状態というのは危機に追いつめられた時に決断をしなければならない状況に追いこまれるわけです。そういう時に退却してしまうと、もう勝利はないわけです。

生か死かのぎりぎりの点に立ってある行為を追られる事ですから、一面から考えると、軍隊の指導者というものは、本当の責任を追わされているのではな

いかと思うわけです。その本の中にリーダーシップとは、

1. 行動はリーダーがなす事である。
2. リーダーシップの評価に当って、重要な要因はリーダーが何をなすか、何をしたかである。
3. リーダーの行動が集団によい影響を与えたり、又逆に悪い影響を与える場合もあり得るという事を考えつつ、行動するのも大事なことである。
4. リーダーシップとは状況的である。

ある選択を迫られる場合において、賢明で適切な状況判断ということがリーダーには必要であるし、それが出来るような資質を高めていくことが大切。我々は固定化社会に育っているのもっとも柔軟性を持たなければいけないのではないだろうか。なお、これらの条件に若干私なりにつけ加えるならば、

5. 同じ失敗を二度くり返さない。
6. リーダーシップとは、人間の行動に影響を与える技術でもある。  
行動的あるいは状況的とあわせて考えてほしい。
7. 人まねをしないリーダー、個性豊かなリーダーであってほしい。

リーダーのリーダーたるゆえんは、夫々のリーダーがその人なりの素晴らしい特徴を持っているからだと思います。自分自身を大切にしながら、皆さん方1人1人でしかあり得ないようなリーダーに育って頂きたいと思います。my way を行きながら、みんなの求めているものをつながるというのが理想の姿ではないかと思えます。

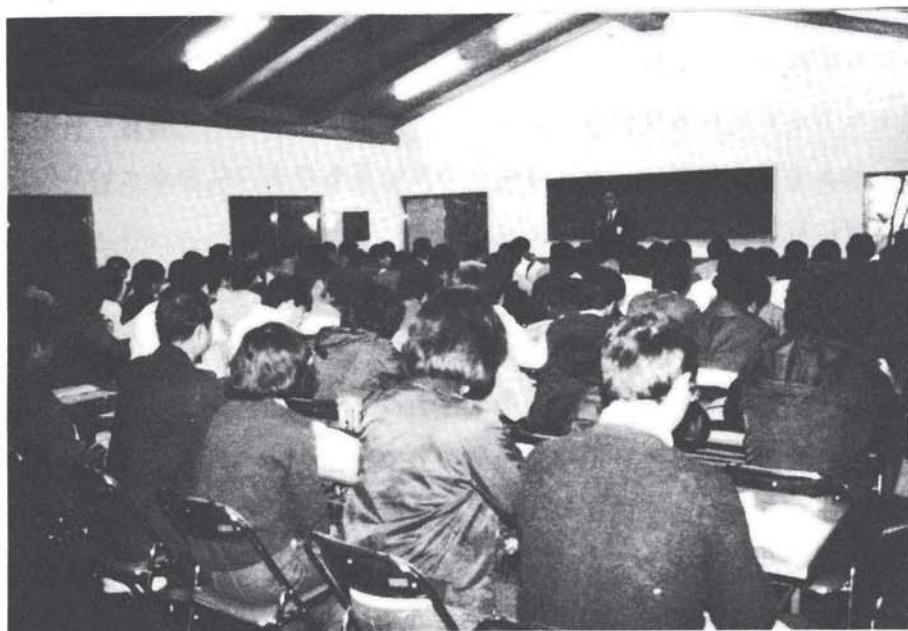
8. リーダーである為には常に自ら学ぶ姿勢が大事ではあるが、同時に仲間から学ぶ、仲間とともに学ぶことも出来ます。学ぶという事は本を読んだり、話しを聞く他に行動を通して学ぶことも大切にして頂きたいと思えます。  
R Y L A の研修会はまさにいろんな所からいろんな方が集まられ、相互に学びあう事があったのではないかと思えます。相互の学びあい、触れあい、ここでの短かい生活体験が自分自身にとって素晴らしい体験であったという風に自らを作りかえていく事がここでの生活が更に素晴らしいものになるのではない

かと思えます。

再度トフラーの言葉を借りて、第3の波に表われている時代ではありますが、未来というものは、唯だまってやって来るものではなく、我々がどういう方向に向って努力していくのか、努力の仕方や方向にかかっているのだという事を述べています。未来は自分達が力を出しあってよりよい時代を目ざして作り直していかなければならないものでありますし、それは、皆さん方や皆さん方の囲りにおられる若者の協力と手をつないだ努力によって達成されていくのではないかと思えます。

キャンプの場合よく言われる事は、良きキャンパーとしての体験が将来のよきリーダーとしての一つの条件であるといわれていますが、この事はそのまま皆さんのこのセミナーにも当てはまり、よきここでのグループの構成員としての体験が皆さん方の将来のよきリーダーとしての資質を型づくることになると思えます。

私の一人よがりな期待だけを皆さん方に申し上げましたが、どうかよきグループリーダーとしての総合学習の体験をして下さって、明日からの地域社会でのご活躍を心よりお祈りして話しを終わりたいと思えます。



## リーダーシップの条件



関西学院大学社会学部教授

武田 建

私は心理学が専門ですから、人間関係の観点からリーダーシップをとりあげてみたいと思います。

「罪を憎んで人を憎まず」と言いますが、英語に Rapport という言葉があります。心理学では対人関係の調和とか一致、さらに親密さをあらわす言葉として使われます。指導する側と指導される側の人間関係は教育訓練職務の上で大切な要素であり、良い人間関係なくして組織を円滑に動かすことはできません。お互いに対する信頼と尊敬、そして欲を言えば親しみがそこに入っているのが理想でしょう。

acceptors (相手) をあるがままに受け入れなければいけないという事が心理学では出て来ます。相手に対する信頼や尊敬、親しみが相手が良いことをするという条件つきであってはならず、我々がメンバーに接する場合、相手の行った結果に対してではなく、相手の人間をあるがままに受け入れなくてはならないという事です。これは言うのは簡単ですが、大変むづかしい問題です。しかし、指導者としてはそうした理想を追い求めなくてはなりません。その為にはまず第一歩として、正直に自分の気持を見つめ、自己の失敗も欠点も、そしていやらしさをも素直に認めることではないでしょうか。我々の心の中にはいろんな感情が起こります。それを押えつけないのではなく正直に認め、受け入れるのが指導者になる第一歩ではないかと思います。

アメリカンフットボールやラグビーはスポーツの中でも特に瞬発力を最も必

要とするスポーツです。

選手をきたえる場合、ただ漠然とやらせるのではなく、各人に目標を与え、自分の記録に挑戦させることは大変効果的です。唯がんばれがんばれではいつまでも続くものではありません。すみやかに記録を伝えることは、一種のごほうびのようなものでしょう。このことは青少年の指導にも同じことが言えると思います。指導者が駄目だと言ってしまうと本人は自己概念を持ってしまって本当に駄目になることが多いのです。自分が他人からどう扱われるか、自分がどう見られているかと勝手に自己概念が動き出します。そして自分が良いと思うと良くもなり、又、逆に駄目だと思うと駄目になってしまひもするのです。

青少年の指導は一人ずつ個性を充分理解してやらねばならないと思います。相手を理解することはただ単に言葉によって表現される感情や見方だけではなく、その人の顔、手足、姿勢、話し方といった言葉以外の表現をも読みとる努力と工夫が必要であることは言うまでもありません。

人間には認識・思考・意思といった理性的な面と、衝動・感覚・感情といった非理性的な面の二つが共存しています。理想としては、この理性と情緒の両方がバランスを保っていくことです。知も情もいずれもが大切であって片方だけが先行してよいものではありません。

しかし、現在の日本、特に学校教育においては余りにも知識偏重がひどすぎそれにつれて教育ママとかママゴンなる言葉さえ生まれてきました。そんな状況の中で育った子ども達をどう理解するかが問題でありましょう。

人間は誰しも他者に理解されたいと願っています。そして自分の立場や気持を分ってもらいたいと思っています。したがって指導者はメンバーの感ずるところを一緒に感じ取る努力をせねばならず、まず相手の立場にたつて物ごとを見ることの出発点でありましょう。ともすれば何かをさせる側からしか見ないという危険性がありますが、指導者の立場に立つだけではなく、相手が何を考え、何を感じ、物ごとをどう見ているかを理解したいものです。相手の気持をくむことはこのことでありましょう。そして相手の気持が分ったらこちらが理解できたことを伝えましょう。自分の話に一生懸命耳を傾け、気持をくんでく



れる人に対しては信頼できるという気持ち生まれ、心を開き普段は胸のなかにしまっておくことでも話したくなるものです。そこに心と心の触れ合いが始まるのです。

カウンセリングやリーダーシップの研修会では講師がよく、「話し上手より聞き上手でなくてはならない」と説かれます。私も両手をあげて賛成です。自分の心のなかにあるものを他者に伝えるということは難しいし、なかなか決心がつかないものです。そんな時に自分がべらべらしゃべってしまうのではなく、むしろ相手の言い分を充分聞いてあげることが大切だと思います。そしてもっと大切なことは、こちらが喜んで一生懸命に聞いているということを相手に伝えることです。それには、相手の言葉をさえぎらないことです。何かの問題で悩み苦しんでいる人は、自分の言葉を黙って聞いてくれる人には自分の心の内を打ち明けやすいものです。もっとも黙っているからと言ってそっぽをむいているようでは、聞き手としては落第です。

あいづちや態度で「貴方の話すことをよく聞いていますよ」という姿勢を示すことです。次には相手の話しをよく聞くと同時に相手の背後を思い、相手がどんな気持ちでいるかを理解し、理解した事を相手に伝えることが人間関係にとって大変重要なことだと思います。

心理療法では受容と共感ということが暖かさや信頼と並んで治療関係の最も基礎的な要素として重視されています。受容とは相手を心から尊重し、相手のやった事は悪いかもしれないが、人間として受け入れるという態度であり、共感とは相手の立場に立って、相手が物事をどう見るか、どう考えるか、何を感じているかを理解し、「わかった」という事を相手に伝えるということです。極めて素朴なことのようにですが、これが人間にとってどれほど精神的な支えを与えるか測りしれません。人間というのは他者に受け入れられたと思えるときに、自分を無理に主張したり防衛する必要を感じなくなるものです。そうした状態を経験したときに心から安心することが出来るし、自分自身を見つめることができるようになるものです。青少年とのかかわりあいの中で、相手は心の中を訴えたいと思っているのに、事実のみを知ろうとする間違いをおかすこと

がよくあります。勿論事実は大切ではありますが、もっと大切な事は相手の気持ちをくむことです。

指導の仕方というものは、大変むづかしいものであると思います。多くの場合、指導の仕方というものの自体を誰からも習ったことがない場合が多いようです。その場合、自分が習ったようにしか教えることが出来ないことが多いものです。言いかえれば育てられたようにしか育てる事は出来ないということです。常に我々は指導の仕方というものを研究し、勉強しないと自分達が習ったようにやってしまうと思います。グループかあるいは個人が現在どのレベルにいるかという事をまず把握し、それから新しい行為に移ることは大切なことだといえましょう。指導の仕方には二通りのアプローチがあります。

一つは「ポジティブ」、つまり積極的肯定的に可能性をさがし求め、少しでも進歩があれば「できた」「よかった」と誉める方法。

もう一つは「ネガティブ」、つまり消極的・否定的に「駄目だ」「いけない」と叱る方法です。

一がいに前者がよくて、後者が悪いとは言えませんが、人間であるかぎり、誰れでも他者から認められたい、愛されたいという要求を持っています。周囲の人達から自分の存在を承認されてこそはじめて自負心や自信・自己尊重も生まれてくるのです。

ただ誉める基準を具体化することは大事であり、抽象的な指導というのは相手に理解されにくいのです。唯「がんばれ」ではだめです。なにがよかったのか具体化してほめてあげることです。誉める基準を適正なレベルの上に立って徐々にレベルアップしていくことは次の段階のポイントです。これは大切なことで、いつまでも同じ所には駄目で、相手の進歩に応じて誉める水準をたかめていくことです。我々はともすれば早く早くとあせりがちになりますが、いくつかの部分に分けて学ばせ、観察し、一寸でも進歩すればほめるというやり方は、あまやかしではなく、より進歩につながる事が動物実験でも実証されています。

人間とは面白いもので、人に与えたものは必ず返ってくるものであると思

います。人を親切に扱えば相手も親切にしてくれます。多少の例外は別として人をいじめれば仕返しは来るものです。社会心理学の実験でも、10のものを与えた場合10が返って来、1のものを与えた場合1が返る率が大きいことが示されています。第一、親切にした方が人間関係がうまくいくことは明白です。ごまをするのではなく、良いところを見つけて誉めることです。そして少しずつ最終目標に向かってやっていくのがよいと思います。

人間は頭で考えて理解して行う事が多く、動物は反射条件づけだけでありま  
す。人間が考えるということは自分と対話していることであります。自分自身  
に対して語りかける——これは大切なことです。更に自分で自分を誉める場合  
も必要で、これが良い自己概念を作りあげる大切な要素ともなりましょう。

人間関係とは総合的なもので、上に立った時には励まし、下になった時には  
その励ましに答え、一生懸命やることでしょう。

リーダーがメンバーを指導する場合、話し合っている時、時には両方の意見  
が必ずしも一致しないこともあるし、自分の考えを相手が受け入れてくれない  
こともあります。ときには、明らかにこちらの話すことが正しいのに、相手が  
それを認めようとしないことさえあるものです。こんなときにも、いくら自分  
の意見が正しいからといって、論理や理屈で相手を押えつけ、強要することは  
だめで、相手のレベルに応じた指導が必要です。

子どもの頃、小学校の先生に聞いた話ですが、昔、城落しの名人と言われた  
武将は、決して城を完全に包囲してしまわなかったそうです。城を囲んで袋の  
ネズミにすれば、城の中の兵士たちは「窮鼠猫をかむ」のたとえ通り、死にも  
の狂いの抵抗をし、そのために城は落ちて味方に多くの犠牲者が出てしまう。  
したがって名将と言われる人は、敵の城を囲むとき、わざと後に一つだけ逃げ  
道を作っておいたそうです。そうすると、城の中の兵士たちは退路をたたかれ  
ぬうちに、その逃げ道から一目散で退却するので、やすやすと城を落すことが  
できるし、味方の損害を最小限にとどめることができるというものです。

これと同じで、こちらの言い分がいくら正しくとも、論理だけでゴリ押しす  
れば、相手はやっきになって反論し、水かけ論になってしまいます。感情的に

なってしまうと理屈も道理も通るはずがありません。ある程度まで話合ってみても、相手が聞き入れなければそれ以上押すのは止めて、次のチャンスを持つことにし、相手にもう一度やるチャンス 逃げ道をつくるのが大切です。時には本人たちが頭を打つまで黙って待っている方がはるかに説得力があるようです。

リーダーのあり方としてもう一つ大切なことは、自分がそのことに熱中している。真剣に取り組んでいる、絶えず努力しているということです。自分自身がしないで、相手に熱心さを要求しても、若い人達については来ません。青少年の指導をするには、熱心な心をたえず持ってほしいと思います。「病は気から」ということわざがあります。実際、体が悪くなれば気もおとろえるのは事実です。情熱を持ち続けるためには、リーダー自身が自分の体を大切にし、いつも良いコンディションに置いてほしいものです。

リーダーの条件の一つとして、メンバーに思いやりを示すことです。そして何かの型で皆なの事を思っていることを伝えることは大切です。よく「以心伝心」、日本特有の「言わず語らずのうちに」という考え方があります。たしかに好意を持っているということは言葉で言わなくとも、表情や動作で伝わることも少なくありません。しかし言葉に出さなければ誤解も多く、言葉と行動の両方のチャンネルから気持を伝えることが出来ればそれに優るものはありません。ノートルダム大学のある監督は「新人は可能性を一杯持ってはいるが、可能性は戦力ではない。充分訓練してはじめて戦力になる」と言われました。若いリーダーは充分訓練され、よいリーダーに成長してほしいものです。

次にはリーダーの好き嫌いでメンバーの役割を決めてはならないことです。メンバーの一人一人を出来るかぎり総てのプログラムに参加させ、一人一人になにかの役割りと責任を与えてほしいと思います。リーダー自身がみんなに好かれる人になることが大事でしょう。

三番目には、グループのなかの気持の問題をよく考え、メンタルなものを大切にしてグループの構成をいつも考えられる人であってほしいものと思います。

四番目には、リーダー自身も1回や2回の失敗でくじけず、それを反省し、

進歩のよい材料としてほしいと思うし、メンバーの一人一人に対しても1回の失敗で評価を決めてしまてはいけない。根気よく見守ってほしいと思います。

グループのよい人間関係が、素晴らしい青少年を育てることが出来ますようにと期待しております。



# バズセッションより

話し合いのポイント  
質問に答えて



テーマ

I リーダーとしてのあり方

II ロータリーと協同出来るものがあれば何か

**A・A' グループ**

I リーダーとしてのあり方

1. outリーダー } 2面を併用したものがよい  
inリーダー }

ここでいう

outリーダーとは、メンバーを側面から暖かく見守り、横道にそれたら修正するか、その他はだまっている。

inリーダーとは、みんなと一緒にやろうというリーダー

2. 家庭の中でリーダーシップをとれる事がリーダーとしての一つの条件でもある。

II ロータリーと協同出来るものがあれば何か。

1. ロータリーのプログラム（催しもの）
2. 留学制度
3. ローターアクトクラブ
4. ロータリーの性格

以上のような事を、いろいろな機会に一般にも知らしてほしい。

ロータリーの根本的なものはむづかしくて、すぐには分らないが、その時々で考えていきたいし、このRYLAセミナーで得たもの等は、自分達の夫々の方法で生かし、反映させていきたい。

**B・B' グループ**

I リーダーとして何が大切か。

1. 人間として魅力のある人であること。

2. 個人個人を尊重出来る人
3. 探究心があり、常に自己研鑽をし、切磋琢磨している人
4. 柔軟な心を持てる人
5. メンバーから親近感を持たれ、よく世話をする人
6. 自分の個性を発揮出来る人
7. 率先して行動の出来る人
8. 優れた判断力と責任感があること
9. 感情的にならないこと
10. リーダーとして学びあう姿勢を常に持っていること

## II 協同の意味

協力して何か行事的なものをするか、あるいは精神的な協調なのか、とりあげ方を話し合った結果。

ロータリーの奉仕の精神は、自分のした奉仕を宣伝しない。陰の力で支えることであると学び、我々も1人である時も、グループでも喜んで陰の力になることを努力していきたい。それはロータリーの精神を生かすことになると話し合った。

## C・C' グループ

### I リーダーとしてのあり方

#### A. 条 件

1. メンバーから尊敬される人
2. 適切な判断力を持っていること

先天的に判断力を持っている場合と、経験を重ねることによって後天的に養われる場合がある。

3. 率先して行動出来る人
4. 上にあっても、下にあっても模範的であること
5. 寛容な心を持っていること。



6. 他人の立場に立って考えられること
7. 自己犠牲も必要である
8. グループ運営について統卒力を持っていること
9. リーダー個人の日常の行動が大切

#### B. 義 務

1. 子ども（メンバー）の適性を早く見つけ、責任を持って行動させる。  
又、子どもを引っぱって行けること。
2. 自分の行動を自律すること。  
リーダーの一言が子どもにとっては大きなものになることもある。

#### C. 種 類

1. 封建的・専制的なリーダー
2. 放任的なリーダー
3. 民主的なリーダー

夫々のグループによって三つのタイプのリーダーが適宜要求される。

#### D・D' グループ

##### I リーダーとしてのあり方

###### A. リーダーになりつつある条件（成長期）

1. リーダーとしての信念（哲学）を持つ
2. 忍耐力を養う
3. リーダー養成の洞察力を養う

###### B. リーダーとして一人前になった時（充実期）

1. 一步下って後輩をみ、アドバイスする。
2. 後に続くものを自然な型で育てる努力をする

##### II ロータリーと協同出来るもの

###### R Y L A 人材銀行の提唱

自分の出来るものを登録して役立てる奉仕をしてはどうか。

ex 手話、講演、掃事（体を使って働くこと等）

## 質問に答えて

直前ガバナー・RYLAセミナー顧問

今井 鎮 雄

### A. ロータリークラブはどんな活動をしているのか

ロータリークラブによって活動の仕方が夫々に異なる。

メンバーの力量、社会に対する関心度、夫々のクラブがおかれている。

地域社会等によって違ってくる。

ロータリーが共通してとりあげているプログラムに次のようなものがある。

### I 青少年に対するプログラム（青少年奉仕）

#### 1. ロータリー財団奨学金

世界中のロータリアン1人1人からお金を集め、奨学金を受ける学生の必要とする国、大学に学ぶ必要、旅費、生活費、小遣等（総て1年間）を援助する。奨学生に要求される条件として日本の善意を相手国に伝えることのみである。（民間の国際親善）

#### 2. 青少年交換

高校生を対象として行われ、期間はクラブによって異なる。

#### 3. グループスタディ、エクスチェンジ

夫々の分野にある5人の優秀な実業青年を、定められた場所に1カ月間おくる。若いロータリアンがリーダーとしてこれに加わる。

#### 4. RYLAセミナー

#### 5. インターアクトクラブ

高校生にロータリーの精神を学びつつ、自分のグループで主に奉仕のプログラムを持つ。ロータリアンも共に参加する。

ローターアクトクラブ

大学生以上、ロータリーの心を持ってクラブ活動を行う。

### II 社会奉仕に関するプログラムの一つとして

世界社会奉仕（world community service）

提案（依頼）した国を他の国も応援し、その担当の国が（提案国）プロ

グラムの実施にあたる。

先進国のロータリークラブが発展途上国のロータリークラブのプログラムを応援することが多い。

### III 3 H運動

1. Health

2. Hunger

3. Humanity

世界中で考え、ここが問題だということに対して、世界的なプログラムを持つという意図によって行われている。

ロータリーは、ある意味では理想主義者の集団である。

よりよき社会(世界)を作るためにロータリーアン1人1人が努めているが、自分達のみではなく、若い人達にもロータリーの精神を生かしてほしいという願いを持っている。

#### B. 交換学生は社交的な親睦に終わっていないか。

出来れば深めていきたいと思っているが、その時の状況によって異なる。

例えば米山奨学金等は、日本に来ているアジアの学生に門戸を開いた奨学資金であるが、奨学金を受ける学生に対して何の義務も荷していない。このRYLAにも3人の米山奨学生が参加しているが、彼等がもっとみんなと話し合い心を通じたいと思って参加してくれたように、向うとこちらとの関係でいろいろ変ってくる。

#### C. ロータリークラブの活動を一般に広報を通して知らしてほしいし、まだまだロータリーは外に対して閉鎖的ではないか。

財団奨学生・米山奨学生の募集に関しては、各大学にポスター等で公募している。クラブによっては活動を町の広報を通して知らしている所もあるしこのRYLAセミナーもロータリーをよく知ってもらう事もポイントの一つでもある。決して閉鎖しようとしているのではなく、費用の関係等もあって

そう広くPR出来ていない所も多いが、今後はなるべく努力したいと思うし、又、RYLAに参加された皆さんからもロータリーの活動やRYLAでの体験をよく話して頂いて、ロータリーのオープンに役立って下さればうれしいと思う。

D. リーダーとしてどうあればよいか。

1. リーダーがグループのメンバーの事をよく理解すると同時に、メンバーとメンバーの間でもよく理解しあうようにさせる。それによってグループの行動をよく理解することになり、又グループの持つ雰囲気によってグループが育っていく。

2. 育った文化の背景をよく知る。

人々の舞台の中で演ずるいろんな面の役割がその人の性格を作っていくし、社会的状況（環境）の中で変化もしていくもの。ある問題の子を持つ時、その子の背景をよく知ることが必要である。

3. よく聴く

メンバーの話しを、一步深まったところでよく聞けるやさしさ

4. よく観察する

5. 感情移入

専門的な指導者として、その人の身になって考える。

人間は、自分の本能的欲望と良心とのたたかいであるが、少しでも高いところに自らを導く。

## R Y L A に 思 う

今 井 鎮 雄

余島で始められたR Y L Aも4年が過ぎ、無我無中でやってきたプログラムを反省し、検討すべき時であろうと思われる。まず振り返ってみよう。

第一、R Y L Aがオーストラリアを中心としてスタートした時には、比較的若い青年達をキャンプ形式の中で、それぞれの地域の青少年グループとして育てることが目標であった。この方法とアイデアは、多少対象者や方法が改変されながらも、次第に世界各国へ広がって行き、最近ではR.I（国際ロータリー）もR.A（ローターアクト）、I.A（インターアクト）と同様に重要なプログラムとして推薦するようになったのはご存知の通りである。日本においてもこの2、3年、方法は少し違うがR Y L Aのプログラムが各地で持たれていることは嬉しい限りである。

第二、我々のR Y L Aはまず参加者の年齢を20歳以上と、やや高くしているところにひとつの特徴がある。これは地域の青少年グループやリーダーを考えた場合、仲間としてのリーダーから、スーパーバイザーとしてのリーダーシップにまでその役割を広げたいと考えたからである。今後の青少年指導者には、仲間のリーダーとしてだけでなく、専門的なリーダーシップが要求されるようになるのであろう。これに応えられるようなリーダー養成の場は、ボーイスカウトやガールスカウトなどの特別な団体以外には少なくなっているのである。

第三、したがってすでに各団体の指導者である人にも次のステップを踏むために、多少高いレベルの知識や技術を身につけてもらいたいと同時に、指導者として全生活的な体験をさせたいと願った結果、余島における合宿という形をとったのである。

第四、我々のR Y L Aの特長は、期間中に大勢のロータリアンを迎え、共にキャビンで生活することである。ロータリアンとの対話集会の中で、この地域で指導している真面目な若い青少年のリーダー達が真剣に何を望み、何を考え

ているのか、ロータリーに対してまたロータリアンに対して何を望んでいるのかを皆で考えるためである。ロータリーに対する痛烈な批判は、むしろ我々の反省を促し、またクラブ活動への原動力となるであろう。

第五、毎回3名の講師陣に、「世界」・「地球」・「青少年」を中心に講義していただいているが、これをお引き受け下さった先生方はいずれもその分野における一流の方々であり、RYLAの精神ならびに青少年をよく知って下さっている方々であったことも我々の誇りとするところである。特定の高名な先生に内容の全てを委ねるのではなく、RYLAの受講生の側に立って、この三つの分野から最もふさわしい講師は誰かということをお願いをしていった。準備委員会のご苦勞が実ったといえよう。

以上のような我々のRYLAの特長がそれなりの評価を受けたことは、あらためて振り返って感謝するところであるが、次のステップに何を要求したらよいであろうか。幾つかを挙げてみたいと思う。

第一、参加したリーダー達と、送り出したクラブの関係をより密にしてほしいということである。クラブが将来の夢を託して青少年奉仕のプログラムのために選んだリーダーであり、それを地区がRYLAを通して訓練したわけである。各クラブが地域における青少年奉仕の中に、この人的資源を十分活用してほしい。できれば年に一度程度、その後の地域における青少年活動のレポートを聞いたり、激励する機会を設けてもらえないだろうか。

第二。すでに300名以上のRYLAの修了生が地区内各地に点在しているわけである。彼等は私的には互いの友情と研修の交流のために、カウンセラーであったロータリアンを通して集っているが、これを組織化していき、RYLA修了生のアフターケアと同時に、この若い力を活用する方法があるのではないだろうか。ロータリーが青少年奉仕の中で特にR.A (ROTARACT)、I.A (INTERACT)を大切にするのは、これらの若者にロータリーの精神を持って地域の中で共働して社会奉仕に励んでもらいたいという意図があるからである。その意味でR.AやI.Aが年次大会を持っているように、RYLAの組織化も、またRYLA修了生の組織化も検討課題である。

第三は、R Y L A 修了生と国際奉仕の関係である。昨年度は数名の米山奨学生が部分的に参加していたが、世界的視野を持つ指導者の養成を考えるこのR Y L A から、世界的な視野で奉仕をする若者を出したいと願うのは私一人であるまい。ことにアジアの中で共に生きる世界を創るためには、そこで生きている青少年同志の交流と交換が必要であろう。P H D の岩村昇博士が「世界理解と平和」というロータリーの不滅の理想を実現するために、近隣諸国の草の根の青年達と日本の青年達とを、生活と労働を通して触れ合わせることを始められた時に、R Y L A の青少年諸君達がそれに参加するなり、独自にプログラムを持つなりして、ロータリーを通しての国際奉仕を発展させてくれることを願いたいと思う。国際ロータリーではR O V E ( R O T A R Y O V E R S E A S V O C A T I O N A L E X C H A N G ) をはじめ、幾つかのプログラムを推薦しているが、我国ではまだこれらのプログラムはあまり開発されていない。やがてはR Y L A の諸君がこれらを開拓してくれることが最も適當ではないかと考えている。

以上はR Y L A 修了生諸君への期待が大きくなりすぎたかもしれない。ロータリーもR Y L A も単なる事業ではなく、事業を生み出す理想であり、ビジョンであることを思い、果てしなく広がるこれらの夢が、誰かによって達成される時、真の世界理解と平和が訪れるであろうと思うのである。



## R Y L A 寸 感

Dean 深 川 純 一

およそ新たに始められる計画というものは、それに対して最初の起動力を与える時期が最も大切だといわれる。

初期ロータリーの場合をみてもこのことは明らかである。即ち、ロータリー運動に起動力を与える最初の最も重要な時期に、ロータリーの始祖 Paul Harris を補佐した何人かの人達、曰く、理論指導者として A・F・Sheldon、組織管理者として Chesley Perry、そして、ひたすらクラブ親睦を守り抜いた Harry Ruggles、Charles A Newton、Dr. Neff 等々有能なロータリアン達がほぼ時期を同じくして現れたことはロータリーにとって幸であった。それらの人達がそれぞれの役割を十分に果たしたことによりロータリー運動発展の基礎が築かれたといわれている。

この RYLA についても同じことが云えると思う。殊に第 1 回 RYLA の場合は全く未知の世界であったし、全ての見通しには経験の裏付けがないから、全く思考だけの世界であった。しかし、幸いにして、この RYLA の企画立案については、理想的な指導者として今井先生がおられたし、その実施運営に当っては、今井先生はじめ梶浦、執行両ガバナーが大きな牽引力となって下さり、その後両地区ガバナーがその牽引力を引き継いで下さっている。加えて、カウンセラーや委員その他の人達の献身が今日この RYLA 好評のそもそもの要因であろうと思う。

顧みて、第 1 回から第 4 回まで、それぞれに味のある RYLA であったと思う。或る年は皆が熱く燃えた RYLA であったし、或る年はやや冷静に、そして或る年は非常にスマートな RYLA であったりした。そして、それはそれぞれに、人々の心に或る種の感動を呼び起してきたし、それはまた、それなりに意義のあることであったと思う。

ただ、過去 4 回の RYLA を通じて云えることは、私達が終始、受講生諸君



の親睦の熟成を大事に考えてきたことであろう。たしかに、このRYLAに関して言えば、ハイレベルな講義、素晴らしい環境等々色々な特徴を挙げることができよう。しかし、RYLAに参加したことの効果との関連で言えば、親睦の熟成こそ最も肝要事であろうと思う。皆が互に心を開く。そのことによって、皆が互に信頼し合う。互に励まし合う。そして互に学び合う。このような所謂精神的親睦（親睦の精神性と云ってもよい）の醸成こそ、ロータリーがその運動形成の中核的要素として考えてきたことなのだと思う。

ロータリーに所謂親睦とは、酒を飲んだり、ゴルフをしたり、というような所謂感性的な親睦を意味するものではない。これらのことは、精神的親睦を醸成するための一手段ではあるかも知れないが、それ以上のものでは決してない。

ロータリーが、「親睦なくして奉仕なし」というのは、この精神的親睦のことを意味するのであって、互に励まし合う、互に学び合う要素があるからこそ、はじめて親睦が奉仕の前提となり得るのであると思う。

もとより、リーダーとしての技術を磨くこと、リーダーとしての知識を修得すること、そして、リーダーとしての知性を高めること、これら全てのことは、本来、リーダー自身が一生涯かけて研鑽して行くべき事柄であるが、このことを前提として、リーダー相互の精神的親睦が熟成されるならば、リーダー達の指導性は、より高次なリーダーシップとして自然に結果するであろう。それは、殆んどの場合無自覚的に、そして極く稀には自覚的に、高次なリーダーシップとして発揮されるであろうと思う。禅の言葉に曰く

「一花五葉を開く。結果自然にして成ず」

これがロータリー奉仕理論の一面の図式であり、私達がこのRYLAで親睦の熟成を大切に考えてきた所以である。RYLAにおいても、正に「親睦なくして奉仕なし」があてはまると思うのである。

さて、私達が第2回RYLAを終えたとき、今井先生は、このRYLAについて次のステップを考えるべき時期に来ているとして、RYLAの年次的発展と地域社会との関連において、まず、RYLA修了者の同窓会を結成すべきことの必要性を説かれ、そして更に、その人達のAdvanced Courseとしての

Training Courseを企画すべきことを示唆されている。この問題は、今後の課題として、兵庫、四国それぞれの地区において独自に計画されることになろうかと思う。これは、RYLAで播かれた種に水をやる作業だとも言えよう。

最後に、第1回RYLA終了者松浦龍司君が核となった「丹波青年フロンティア大学」は、今年で既に3年の歳月を閲する。毎年成功裡にその幕を閉じており、今年は去る9月15日から丹波文化会館で51名の勤労青年男女が集まり（男32名、女19名）第3回を終了している。これは、篠山町役場に勤務する松浦君が、RYLAセミナーの素晴らしさに感激し、地域に帰ってから丹波にもこういうセミナーを是非作りたいと考えて奪走し、丹波県民局、丹波文化会館に働きかけ、篠山R.C、柏原R.Cも積極的に後援して誕生したものだという。正に「地域のRYLA」とも「丹波版RYLA」ともいうべき素晴らしい出来事である。今後、RYLA修了者諸君が地域のロータリークラブやロータリアンと共同して、このような行事が地域社会に一つ二つと拡がって行くことを期待してやまない。最後に、RYLA修了者諸君が誇りと使命感をもって活躍されることを祈りつつペンを擱く。



# 参加者感想文

A・A'グループ



## すばらしい青春

カウンセラー 井上昌俊

オリーブと人情の町、小豆島の余島で開かれたライラに参加させて頂き、実に感動的な3日間を過ごすことができ、主催された諸先生方、参加された若い皆さんに心より御礼を申し上げます。

松下幸之助さんの言葉通り、“青春とは年令ではない、人間としてすばらしい情熱を出し切っているときを青春という”この言葉通り47才の私自身が体験した青春でした。

カウンセラーとして役目はそこそこで、私も受験生の若い皆さんの中に自然にとけ込んで行けた事を不思議に思え、あのライラの指導に当たられた先生方とその企画に、本当に頭の下る思いです。

僅か3日間でありましたが、同志として心が一つになり最後の夜のキャビンタイムの時等は十年來の友との別れの様な気がして、なごり借しく、終始胸にこみ上げるものを感じました。

このセミナーによって、“仕事の上で大きな壁に対しての悩みが何となく解決した。明日から頑張るぞ!”と語った若者。“もっと、もっと自分を大切にしたい”と言った人! このようなかたちで私達のロータリーが少しでも世の中の為に役立っている事を知り大変うれしく思いました。又、私自身“指導者とは、こうあるべきだ!! すばらしく生きる人間としてこうありたい!!”といった指導を柔かいタッチで教えられました。

御指導を頂いた諸先生方本当にありがとうございました。そして人間の付き合いは本音で付き合うべきだと、肌で教えてくれた若い方々に心からお礼を言いたい。

最後になりましたが、御手紙を頂いたり、お電話を下さったり、写真を送って下さったり、皆さんほんとうに有難う。

ライラ万才!! 青春万才!!

## 水 村 雅 彦

一期一会という言葉がありますが、このRYLAセミナーでほどその言葉を深く考えた事はなかったと思います。

今までに一度も会った事のない人々が集まり、最終の日には、まるで中学高校の卒業式を思い出すような気持ちになった。

このセミナーでは、午前にはその分野では一流の先生方の講演を聞き、午後、夜には自分とまったく異なった環境の人々とともに語り、ロータリアンの方々から、これまでの御自分の人生を通してのいろいろなお話し、つくづく感じられる面が多かったです。

自分が所属する団体においては、自分中心の自分のための世界しか見えていない事がわかりかけた気がします。これからもう一度、人と人とが共に生きる事、また、自分がこれから成長するにあたり、社会の中でどうあるべきか、自分の価値を認めるのは自分自身でなく、自分とは、顔も考え方も異なる人々だという事について考えてみたいと思います。

最後に、この意味深いセミナーに参加させて下さったロータリアンの方々、また自分たちの余島での生活をささえて下さった神戸YMCAの方々、小豆島ロータリークラブの方々に心より御礼を申しあげたく思います。

---

## 榎 本 孝 志

このライラセミナーに参加してみて、少し天気も悪かったけど、素晴らしい大学の諸先生の良い話しを聞くことが出来たし、食事もとっても良かった。

何といっても、A班のみんなと、深く掘り下げた所で話し合いを持つことが出来た事。

僕にとっては、今まで進んで来た道の反省になり、又、これから進んで行くとする道の土台作りのプラスになると思う。

A班のみんな、短かい4日間だったけど、色々な話しをありがとう。

## 高 津 敬 三

僕という人間がなんと都合のいい、そしてなんと狭小な優しさしか持ち得ていないかということが感じられた。僕は飢えを知らない、たとえどのような方からその悲惨を訴えられても、理解できないんじゃないか、その苦しみを肉と心が知らないからだ。

しかし、人は孤独を知っている。肉と心をもって体験しているからだ。このセミナーでその孤独を克服し、自らを殺すことの出来る方をみた。人は人の孤独に対して敏感であると思う。気づき、しかし時に応じてその人の孤独を暗黙の無視をもって返すこともある。セミナーの初期、僕もこの孤独を畏怖した。

僕の思うリーダーの具すべき第一義は、孤独を認識し、それを人の心の裡に見定めることが出来るか否かにあるということだ。

こんな事がある本にあった。

「おいAが自殺したんだってよ、どうしてあいつが自殺なんか……云々」

「お前も含めたクラスメート全員が殺したのさ、何故って？ お前はAが死んだ理由を知らんといったじゃないか……」

仲間意識の強い人、莫迦をいって人を笑わせる人、その人達は孤独を誰よりも知っている人かも知れない、だがその彼等が他人の孤独を自分の孤独だと感じているかどうかは解らない、いやむしろ、自分に迫る孤独に対する畏怖心の由に、敢えて他人の孤独を無視してしまうかもしれない。

そして最もやっかいなことは、多くの人が彼の孤独を極力人に悟られまいと思っていることだと思う。これは、単に僕がそう感じたにすぎないことかもしれない。

セミナー後半、素晴しきA班の心の輪の中、恐れていた孤独は露と消え、雲が退き、陽が照らされた。忘れられないカウンセラー。そして先輩方であった。

合 掌

## 菅 泰 介

この余島で、多くの若き最精鋭の青少年グループの指導者と起居を共にし、遠来の教授方の熱意溢るる講義を共に学び、4日間に掛って大変貴重な経験をし、そして若き友を得、只今深い幸福感に浸っております。

年令、団体、男女の一切にこだわらず、唯一点、青少年の健全な成長を願う。現在、活動中のリーダーであるという共通点のみで集められた他に類をみないこの集団の中で、他の団体の指導者と起居を共にする事が出来、多くの事を学びました。

その最大のものは、若き人達が自分の後輩達である少年達の現在の姿を憂い、自分達の資金と労力で団体で結成をし、多くの労苦をものともせず精力的にそして地道に、又、大変賢明なことに自分のすぐ身のまわりから、それもすぐ自分でできることからそれを始めていることです。

これこそ青年の特質である「廉直さ」に裏打ちされた真実の行為であると確信いたします。

私はこの点に感激し、たのもしさを感じました。

青少年に明るい生命の「いぶき」を吹き込むのは青年でなければならない。そして、私もいつまでもその青年でなければならないと痛感しました。そして彼等にも私にも、もっと自分の運動についてもっと幅広く、奥深い科学的、理論的追求の必要性も痛感しました。

その他、多くのことを学び、感じ、味わいましたが、すべてこれから私の体内で消化、吸収され、いずれ私の血肉となることは明確に予感できます。

そして、それを一日も早く少年達に与えねば……。

最後に、このような素晴らしいチャンスを与えて下さった東灘ロータリークラブとロータリアンの真執な姿を見せて下さった数多くの方々、そして奉仕の良き手本を見せて下さった井上、前田カウンセラーに深い感謝と敬意を表します。そして余島とその皆様に……。

R Y L A の増々のご発展を祈ります。

弥 栄

## 第4回RYLAセミナーについて

藤原 登志幸

このセミナーで一番体得したのは、なんといっても心と心のつながりだったと思う。

今までまったく知りもしない人と出会い、語り合うなかで、心がゆるし合える。そして“ホンネ”が出せるようになった。心がまた少し広がったように思える。

私にとってこのセミナーのどんな講習よりも、キャビンタイム・自由時間での心のつながりが一番の収穫物でした。この出合いをこれからも大切にしたいものだ。

---

十 河 統 興

私は、このRYLAセミナーに参加させて頂き、多くの方々とふれあい、討議し、たいへん有意義な3泊4日が過ぎた事を、ロータリーの方々および参加させて頂いた上司に感謝いたします。

種類の異なる社会团体および幅広い年齢層との方々と接し、時間を忘れ話し、人間とはどのように生き、また導いていくかを学ばさせて頂きました。それに無形財産である友を多く作らせて頂き、このセミナーが終了しても、永遠の友として友情を継続させていきたいと思えます。

最後になりましたが、余島の裏方の人達に対し、心より御礼を申し上げます。機会がありましたら、ぜひ再びこの余島に来ますのでよろしくお願い致します。



## ライラセミナーに参加して

古手川 忠 義

私は今回このセミナーに参加させて頂いて、大変良い勉強をさせて頂いたと思います。

“人と出会い、神と交わり、愛の火のもえる所”という石碑もありましたように、多くのいろいろな人々と会って、いろいろな話しを聞かせてもらいました。私からみれば、皆さんが先生であって、聞くことが全て新しいことばかりで、新しい考え方も少しながらできたのではないかと思います。

たった4日間の日程ではあったけども、皆さんと色々な話ができてうれしく思いました。

今回は雨に降られて寒い思いもしましたがけれども、本当に楽しい4日間でした。こういう機会を与えてくださったロータリアンの皆さん、講演をしてくださった先生方、カウンセラーの方々、そしてセミナーに参加された皆さんに感謝いたします。



堂 本 重 男

3泊4日のライラセミナーも今終ろうとしている。大自然に恵まれたYMC A余島キャンプ場で、多くの良き友と出会った。

各地域からリーダー的存在の若者が集って、個々の持っているものを出し合った。そして、個々に吸収しあった。

エキスを完全に出しきった者、時間の短かさゆえに出し切れなかった者、人それぞれに感じることはまちまちだろう。

しかし、ただひとつ言えるのは、地域に帰った時、ライラセミナーに参加する以前の自分とはひと味異っているだろう。そして、一歩前進した活動をするだろう。

ここで知り合った友人とは、今、離れ離れになって行くが、心は完全に一つになっている。問題はこの輪を今後、いかに大切にするかという事である。決してこの場限りで終ってはいけないと思う。

地域に帰ってリーダーシップを取る時、より強くこのライラセミナーの意義を感じとるだろう。

とにかく、友よ情熱を常に最大限に！

そこから何かが始まる。

本当に短い間だったが、大変素晴らしいひと時だった。

またどこかで、素晴らしい笑顔に会えますように。

そしてその時まで元気で。 さようなら



## 弘 内 喜代志

余島という場所で、ライラセミナーというプログラムの鏡でゆっくり自分自身をみつめなおすよい機会でした。その鏡に写ったもう一人の自分が本物の自分をきたえていく。

その過程には、諸先生方のご指導、また仲間との語らい、それらが一つの刺激となって自分自身を高めていく、それは結局、自分自身の自覚で心を広くしていく、前向きな態度がライラセミナーの成功の鍵であろう。さて私は、聞くことによる、いわば受身のリーダーシップ、さりげない、目立たないリーダーシップも必要だなあということを知りました。それは私にとって大きな一歩です。社会人としての大きな成長につながって行くことでしょう。

ほんのささやかな社会人としての一人として、ほんの少しの奉仕を行っていきたいと思います。

ライラセミナーを運営なさったロータリアン、特にA班のカウンセラー井上、前田さん本当にありがとうございました。

## 第4回 ライラセミナー

大 上 正 幸

今回のセミナーを通じて、私が一番感じたことは一つの理想というものに対して、みんながどう考えていくかということを知るきっかけをもらったような気がします。

ここえ来るまでは、おもしろくないんじゃないかと思ったり、集団生活で息がぬけないんじゃないかと思ったり、いろいろと取り越し苦労をしたものですが、みんなの理解と友情が広がっていくたびに、僕のような頑固者でも感動せずにはいられなくなり、一つの柔軟性というものを学んだような気がします。これから私が地域社会の指導者としてやっていく上で、今まで通りやっていけばいいんだという勇気とパワーをロータリーは与えてくれたような気がします。道はとざされてそれぞれちがっているけれど、誰もが願っている場所はみんな同じだということを確認して、



西 勝 秀

努力をおしむ者に、目標をもつ資格なし。

別れを悲しむより、出逢いを感謝します。



竹 村 安 彦

今回RYLAセミナーに参加して、自分自身の人生にとっても大きな起点となるべきものがあつたと思う。今ここに一輪の花をつけた小さな雑草があるとすれば、以前の私であつたら何も考えずに通り過ぎたでしょう。というのも以前の私は、自分自身に対して非常に甘い物の考え方をしていたと思うのです。

つまり何事に対しても、自分だけはこの利己中心的なとらえ方をしていたと思う。また、物事の判断において表面的な思考しかせず、一步深く掘り下げた考えがなかったと思うのです。

今回のセミナーにおいて、他人の立場に立って他人の不幸を自分の棒としてとらえるという人間にとって大事な何かを学んだからです。

とかく日常生活で、明るく、はなやかな物に魅かれがちで、そういった物についてあこがれ、自分でも欲求しがちであったと思います。この事は表面的には美しいかも知れないですけど、真の美しさがないのではないかと今考えています。今後は表面の美しさではない、真の美しさを持ったものを大事にしていく人間でありたいと思います。

また今回、RYLAで出合った数多くの友人のつながり、出合いを今後も大事にしていきたいと思います。

また最後になりましたが、井上カウンセラーを初め、ガバナー・ディーン他、ロータリアンの人々、セミナーにご尽力の方々に深く感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

\* \* \* \* \*

今 井 雅 雄

ああ、なさけない、何をしに余島まで来たのやら、せっかく素晴らしいセミナーに参加できたと思っていたのに、途中で熱を出して倒れてしまうなんて、リーダー失格です。きっと、自分では知らないうちに油断があり、浮ついた気持ちになっていたのでしょう。

21日の午後までの体験は、どれをとっても素晴らしいものでした。二人の先生の講演、時間があるごとにグループの人と話したこと、レクリエーション、特にキャンプファイヤーは、初めての型式で感動しました。

そんな、嬉しい、楽しい気分だけに浸っている私に、神様は長い思索の時間を与えて下さったのでしょう。

今まで、大きな病気などしたこともない私に、健康というものの大切さ、尊さを身をもって考える機会が与えられたのです。そして時々部屋の様子を見に来て下さるカウンセラーやグループの方たち、つい3日前までは名も知らぬ他人だったのに、私の病気で、グループの人たちの仕事が増えたにもかかわらず心配して下さったり、食事を運んで下さる。私はもう嬉しいというより、申し訳ない気持ちでいっぱいです。

私にとってこのセミナーは、一生忘れないでしょう。本当に良い思い出になりました。

余島、それは私に愛の火の暖かさを教えてくれたところです。こんなすばらしい体験をさせて下さったロータリークラブに感謝します。

そして、Aグループの皆さんはじめ、いろいろお世話になった皆さん、本当にありがとうございました。

でも、もっと話したかった、せつかく仲良くなったのに、もっとみんなの話が聴きたかった。それだけが残念です。

\* \* \* \* \*

## 鴻池由美

余島が近づくにつれて、いろいろな不安が大きくふくれあがっていった。

本当に私のようなものが、セミナーについていけるだろうかという不安は、その中でもとびっきり大きいものでした。しかし、キャビンタイムの中で一つの問題にとりくむにつれて、それらの不安も、どこかえ飛んでいました。

たった4日間で仲間なんてつくれるのだろうかという考えも頭にあった。けれど4日間のセミナーを終えて、今は深い友情でつながれた仲間だとはっきりいえます。

ライラセミナーの生活は、今後の生活の中で経験できない体験だったと思います。4日間で聞いたり、話し合ったりしたことは、すべて私にとってプラスになったと思います。いつまでもたえることのない友情と、またの再会を願ってもとの生活にもどります。

## ライラセミナーに参加して

神 野 由 美

4日間、本当に楽しかったです。

ロータリアンの人は、年配の方が多いのにもかかわらず、私たちに負けないほどの若さと熱意をもっているんだなぁと思いました。

このRYLAセミナーで多くの人と出会えて、本当によかったです。1人では何もできなくても、これだけ仲間があつまれば、何でもできるような気がしました。この情熱をただのお祭気分でおわらせないように、自分の活動の中に生かしていきたいと思います。

どうもありがとうございました。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

佐 野 恭 子

「感動」この一言です。

初めて会った人々とわずか4日間という短い時間で何をし、何を学びあえるのか不安でいっぱいでした。

しかし今、私のこの胸の高鳴りは、なかなかおさまりそうにもありません。これからの私の人生の中で、きっと情熱となって燃えつつけるでしょう。

今までは私も、何かをやりたいという気持ちばかりで、なかなか行動にうつせませんでした。しかし今は何かをしなければ、まず行動に移さなければという、じっとしていられない、ファイトのようなものが体中にいっぱいです。

そして、多くの新たな仲間ができ、それが友情の輪となり、共に喜び、悲しみ、学びあうというすばらしい体験ができたこと。そしてその機会を与えて下さったロータリーの方々、またお世話をして下さった方々、講師の諸先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。

ほんとうに、どうもありがとうございました。

## ライラセミナーに参加して

久 松 栄美子

職場における現在の自分の立場を考えてみると、皆が幸福になれるよう皆の為になるよう努力し、自分自身を作り上げて行かなければならない。

企業の発展は、我々社員の幸福につながるものである。すなわち、その企業の発展に協力したい。我々社員の一人一人をもっと深く知り合い、理解と友情を持って接する事により幸福を分かち合いたい。

そして地域社会において企業が発展するのは、地域の人々の協力がなければ企業は生きて行けないので、その地域の人々にも協力できる人間性をやしないたい。

すばらしい若者達にめぐり逢い、私の職場の若者達もこのセミナーに参加された若者達のような、すばらしい人生の目標を持たせたいし、自分自身もこのセミナーを機に、これからの人生に向って今深く反省し、軌道修正をして自分自身をみがき上げて行かなければならないと全身で感じられた。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

川 原 慶 子

能の序破急のリズムをご存知だと思います。ゆっくりだったリズムが徐々に早くなり絶頂に達する。今、そのリズムが私に押しよせています。何なのでしょう。仲間の呼吸が聞こえます。息使いを感じます。私たちの群舞は今絶頂です。一つの舞台の上ですばらしい群舞ができました。

仲間のすばらしさ、前向きで誠実で豊かな人たちに感謝感激!! カウンセラーの井上、前田先生の大きな人間性に敬服!! ライラセミナー参加の切符をくださった香川短大理事長、大久保先生に親愛と尊敬をこめて感謝。お世話をくださった今井、深川先生、講演をしてくださった諸先生方、施設を快よく使わせてくださった職員の方々に、今感謝の気持ちでいっぱいです。

眼の輝きと身体の中を通る針金が少し豊かになりました。同じ班の仲間は皆そのように見受けられます。一瞬の群舞は終わりましたが、心の中に大切なものが残りました。宝物がまた一つ増えた。喜びを子どものように素直に受けとめています。

いろいろありがとうございました。



## ライラセミナーに参加して

山本直子

今までの単調な生活の中では得られなかった、かけがえのないものを、今回のセミナーで取得できたような気がします。思えば、不安やロータリークラブへの不信感、擬惑を持って参加したものの、今では本当にロータリークラブへの理解と、青少年活動への意欲を新たにし、生まれ変わったような気持ちで地域へ帰ることができるようです。書物ではわからないこと、あわたましい都会生活では味わえないことを実際に経験し、考え、新たな気持ちで再出発できることを本当にありがたいと思います。

時には自信をなくし、挫折し、放り出し、それでもどこかひかれる所があって続けてきた青少年活動において、もどかしく思っていたことの解決の糸口がみつきり、自信も湧いてきました。

4日間、恵まれた環境の中で良い講義を聞くことができ、すばらしい先生、仲間に出会うことができ、かけがえのないものを得、形なき財産をもちかえることができ……どれをとっても私たちは幸運でした。

しかし、これほどまでにロータリアンの方々がしてくださった好意に充分答えることができるかどうか、とても不安です。それでもとにかく、私自身が友情、自然の雄大さ、などに深く感動し、共に学ぶことによってより一層、地域社会への愛着が深まったことは大きな収穫だったと思います。

本当に、どうもありがとうございました。



## B・B'グループ



## 余島の感動と思い出

カウンセラー 菊 沢 建 明

3月18日松山を発ち、車窓から見る風景はもう春、期待と不安を乗せて余島に着く。余島は緑におおわれ、足を一步踏み入れたとたん奉仕の風が私の目に入ってくる。ボランティアの青年が少年少女の為に力強く働いている余島。その物が善意と奉仕の色をかもし出しているようだ。

ライラカウンセラーとは、どのような事をすれば良いのか！ 私にはさっぱりわからない。不安と期待で胸が張り裂ける思い。青年との出合いが始まり、B班20名はキャビンにて早くも自主的に自己紹介、とてもユーモアがあり垢抜けしている。1時間半のインフォメーションの時間にすでに友情らしきものが生まれ、自然にリーダー、世話役が誰れいうとなく出来あがり、ライラ「自主」を大事にするといった深川ディーンという言葉が判るような気がする。キャビンタイムでは歌あり、落語あり、問題提起ありで3日間夜明け前まで精力的に語り合い、私自身が青年とともにある事に気付く、青年リーダーとの生活は私の今まで知り得なかった感動の連続であった。日を重ねるにしたがい、私の弟、妹、いや子供であるような気がする。不思議だ！ これを友情の芽ばえというのであろうか。バラエティーに富んだプログラム、私自身初めて体験したキャンプファイヤー、墨を流したような夜空に宝石の輝きをかもし出すファイヤートーチ、その火に写し出された顔々は明日の日本のリーダーとして自信に満ちあふれた美しい顔であった。268地区女性カウンセラーとして私とともにお手伝いさせていただいた林先生との出合い、その人格は次第に青年に影響を与えていく林先生と青年の前で少年少女のようにロータリー理論について論議をしたのも楽しい思い出、涙あり、笑いありの有意義以上の4日間、唯々このチャンスを与えてくださった事に感謝するのみ、私自身が体験した事は私の利益であり今後の青少年活動としての心と実践が私の課題となる事であろう。

「自主」、「共にある」、この二つは体験し実行してこそ真の意味が判り得る事なのだという事がはっきり自覚が出来た、ライラは親睦の実践の場として

数々の感銘とともに全スケジュールを終わる。

別れの時は涙で海が見えず大変困った事は今も心地良い思い出、余島における私の得た事の多かった事で筆を止め、ロータリーとしてライラのプログラムが永久に続く事を祈るのみ。このライラセミナーを楽しくプロデュースして下さいました皆様および青年諸君ありがとうございます。またお会いしましょう。

ちなみに、私と林先生は2人合せて「円満コンビ」との事、アダ名としてはスバラシイ。



## ライラをたたえて

カウンセラー 林 真紀

心やさしい若い人々に囲まれ、楽しい4日間でした。このセミナーを有意義なものにしようとメンバー1人1人が心をくだき、いたわりあい、前向きに参加して下さい、皆さんが心うちとけた友となって下さったこと感激でした。毎夜の親睦も参加したものでないとわからない興奮をおぼえ、ハッスルしたものでした。

人が出合い心をひらき、うちとけていくことが出来たのはライラならではの貴重な経験ではないかと思えます。ロータリアンの皆様の「ロータリーの理想を若い人々にも」という願いは確かにとどいているのではと思います。ご指導下さったロータリアンの皆様心より御礼申し上げます。

四国に、兵庫にライラの輪はひろがっています。どうぞライラが皆さんの活動の源となり、ますますご活躍なされること心より祈っております。

## R Y L A セミナーに参加して

大 野 剛

私は、ロータリークラブの役員をしておられる知人の紹介により、このセミナーに参加した。神戸からの船の中での自己紹介を聞いてみると、各地でボーイスカウトや青年団などでリーダーとして活躍している人が多く、私のように今まで青年の団体で活動した経験もなく、また引っ込み思案の者が、一緒にやっていけるかどうか不安だった。

しかし、初日のキャビンタイムでその不安も柔らぎ、キャビンでの集まりを重ねる毎に少しずつ消えていった。

私のB班は活発で、楽しい人がたくさんおり、カウンセラーの菊沢さんと林さんがうまくリードしてくださったこともあり、4日間を楽しく過ごせた。

夜ひざをつきあわせていろいろな話しをしたり、ゲームをしたこと。バズセッションでの討論などは一生の思い出になると思う。特に最後の夜にカウンセラーの涙を見た時には、自称クールの私も感動した。同じ班の人達の話し、また、めったに聞けない先生方の講演を聞くことができたことも、非常に良かったと思う。また、それより、自分を見つめ直すこともできたように思う。

ロータリークラブの先生方の話しを聞かせていただいたにもかかわらず、ロータリークラブのことは、まだよくわからない。ただ私なりに感じたことは、“社会に奉仕できる人”であらねばならないということである。

私は4月から就職する身であるが、社会に出て、このR Y L Aセミナーでの経験を少しでも役立てれば……と思っている。

R Y L Aセミナーの先生方、本当にありがとうございました!!

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

宮 本 益 雄

「来る」R Y L Aと同じ発音を中国語で書くと、前記のような漢字になり、意味は英語のWellcomeに当たるような……。

私が、このセミナーに参加する機会は、2年前から縁あってリーダーになったB.Sの関係である。

第3回は先輩が、そして第4回目はこの私が参加出来た。結論から言えば、会社は3日間の欠勤であったけれども参加して良かったの一言である。

何がどうと、今一言ではとうてい表わせないけれども、この4日間、本当に楽しかった。ただそれだけで良かった。私はこのセミナーで何を学んで帰ろうなんて来た訳ではない。ただ1人でも2人でも……多くの人に出会える。があればどんな小さなチャンスでものがさずにつかまえてみようと、それが今回実現しただけである。

特に今回は、私が色々と体験して来たセミナーとはまったく異質のセミナーであった。まったく自由と言っていいほどの日程で、実にのんびりとした内容である。それがいいのか悪いのかはわからないけれど、何かを感じられたその何かを求めながら次のステップへ進みたい。

帰ってRYLAの報告をするならば、ぜひ来年も誰か参加できるようにしてほしいと、そして又、何年か後に再び私自身が又違った目でこのセミナーに参加できればなんて思いながら余島を後にする。



## 浜田英男

職業、思想、宗教……すべて個々に異なる若人たちが、余島のキャンプ場に集い、生活の場としてライナーセミナーをとらえた場合の宇宙空間への無限の拡がりに私は驚く。

何らお互いについて知るところもなく、顔と名前さえ一致しない、言わば最も元始的な状況からスタートしたこのセミナーは、共通の場と空間を共有し、あるいは分ち合うことで、時の流れとともに、お互いの感性が共鳴し合った。

現代はとかく合理的な裏づけがないと、何事も認められないが、特に私自身社会人になってから失っていた感性の大切さを再認識できたことはとても大き

な喜びである。

フォーラムの時、ある班の報告で、小学生がアイスクリームのステックを投げ捨て、それを見ていたリーダーが即その行為を厳しくいませめた、との話があった。

私は感じた。もし、小学生が自分の目の前の道路の真ん中に蝶々が止まっていた、そこへ自転車が走って来たためにステックを投げて逃がしたとしたら……この場合、むしろほめるべきケースではないか。

相手の身になって考える。大へんむづかしいことだ。

しかし失敗を恐れず、若さとエネルギーをせいっぱい発散し続けたい。

最後になりましたが、いつもどこからか、あたたかいまなざしで私たちを見守って下さった菊沢、林両カウンセラーに心からお礼申し上げます。ほんとうにありがとうございました。

そして、このセミナーに参加した仲間たち、ほんとうにありがとう。くれぐれも元気で。

＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊

## R Y L A セ ミ ナ ー

木 下 弘

私は今、この感想文を書きながら第3回 R Y L A セミナーに参加されたボーイスカウトの先輩の言葉を思い出した。去年、先輩はこのセミナーに参加され非常に感激にひたってこられたことを思い出す。

自分が第4回 R Y L A セミナーに来て始めてその感激が解ってきた。“百聞は一見にしかず”というものそのまま直面したからである。

昨日の友は明日の親友だ、はっきり言って、神戸ポートターミナルに集合して船に乗った時、何といううつつうしいセミナーだなあと思ったが、しかし今では良い先輩にもめぐり合い、たいへん幸せな4日間であったことははっきり言える。非常に感謝の心でいっぱいである。それからロータリーの方々、この

4日間、自由自在と言いながら陰から見守って下さったことに対しても、非常に感諾いたします。

これからも何とぞよろしく願いいたします。

Good by.

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

## ライラセミナーに参加して

小倉 邦男

今回のRYLAセミナーに参加して、ほんとうに良かったと思います。

長年の経験や勉強で得た知識も豊かな講師の方や、ガバナー・ディーン・所長・カウンセラーの方々と、多数の人に色々な話しを聞き、今までの自分と何か違うと感じました。何かわからないが大きな目標がどこかでみつかるような気がします。

それに多数の友も出来ました。時間が短いので一夜を明かして話しもしました。その中で新しいゲームや遊び方もおぼえました。

セミナーを通じて得た色々な事がいつか役立つように努力していきたいと思っています。

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

戸田 一寿

ボーイスカウトのリーダ会の時、先輩からRYLAセミナーの事を聞き、おもしろいから行って来いと言われ、別に目的も持たずに楽な気持ちで参加させて頂きましたが、多くの人と知り合いになれ、又、色々な考え方に接することができ、とても勉強になりました。

特に岩村昇先生の講義は来る前から楽しみにしていたのですが、とても素晴しかったです。

我がBグループは4日間、常に遊びの場で、沢山のゲームを教えて頂きました。帰ったらさっそくあっちこっちでやらせてもらおうと思います。

このセミナーを通して、レクリエーションの楽しさと重要性を、改めて知りました。

4日間を有意義に過ごさせて頂き、本当にありがとうございました。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

大 西 真

職場という組織から久しぶりに開放され、お互い気がねなしで話し合える講習会に参加できたことは、自分という人間を、またちがった角度から見つめなおすことができた。

他に類をみないプログラム（自由時間）で実施されたことは、1人1人が積極的に課題にのべあい、問題点、悩み等を解消して、帰ったらまたがんばろうという活力が自然に湧き出してくるようになれば……ということを目的の一つにしているようだ。

とにかく、長いようで短かかったライラセミナー講習会……。またチャンスがあれば、一歩でも進んだ自分で参加したいと思う。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

森 政 治

この度のライラセミナーに参加させて頂きました事を感謝します。

このセミナーに参加する前は、ロータリークラブとは、お金持の集まりかと思っておりました。

しかし、このセミナーで、ロータリークラブとは、社会奉仕精神を主とする方々の集まりと知る事ができました。

ロータリアンの方からライラセミナーに参加しないかと勧められまして、なんとなく来ましたが、帰りには、感謝の思いでいっぱいになりました。



自由時間が多いのにおどろきました。

仲良くして下さいましたB班のみなさんありがとうございます。

お世話して下さいました菊沢カウンセラー、林カウンセラー、ありがとうございました。

※※※※※※※※※※※※

## RYLA セミナーに参加して

井 川 健 司

非常に有意義な研修（セミナー）であったと思いますが、不可解なセミナーだったという感想があります。

このセミナーの間、いつも頭の中には、「ノ」とか「？」のマークが浮んでいました。もともと、ロータリーに関しての知識がないうえに、ボランティア等の言葉に縁遠い私であり、このセミナーの目的・意義がわかっていない私にとって、ロータリアンの方々が言われることは理解に苦しむことが多かったし、またそのため、変に推測したため偏見を持ち、反感さえも最初あったためと、各行事が自分の予想していた形式、内容とはまったく別のものであり、とまどったためだと思います。

いろいろありましたが、セミナーが終って、はっきりとわからないけれども何となく自分に変化があったと思う。つまり、例えていうと、どこからか風が吹き、枯葉やよどみを除き、どこからか種を運んできて、バラまいていったという感じですよ。

今、何を得たかは、はっきりわかりませんが、この風が運んできた種が、いつか芽を出せば、このセミナーに来た意味があると思っています。

それから、素晴らしいカウンセラー、グループの仲間たちと出会えたこと、いろいろな業種、年齢、地域の方々の貴重な話が聞くことができ、本当にうれしく思っております。

嗚呼、このセミナーに参加してよかった、楽しかった、最高。

## ライラセミナーに参加して

栗飯原 豊 弘

何の暖房設備もない部屋で、薄い毛布にくるまり、異常に寒い一夜を過ごしたのは、セミナーの第一日目の夜であった。

このセミナーに参加して、私はふたつの宝を得ることが出来た。そのひとつは、素晴らしい講師による熱のこもった講演であり、もうひとつは、素晴らしい仲間との出会いであった。講演の中で一番印象に残るのは、岩村先生のネパールにおける献身的な医療活動の経験の講演であった。「人間、これほど他人のためにつくしながら生きて行けるものであろうか？」と、信じられないほどのお話しであった。

私自身にはとうてい真似のできない奉仕活動である。しかし、同じ人間のなかにも、こんな素晴らしい生き方をしている人がいるということを知り得ただけでも喜ばしく思うし、自分の考え方の甘さを思い知らされた。講師はもちろんであるが、受講者たちの中にも、企画力のある人、陽気で皆をなごやかな気持ちにさせるのが上手な人、ゲーム等知識の豊富で、皆を飽きさせず人使いの上手な人、等々、私が取得したいと思っている力を持った人がたくさんいた。

その様な、素晴らしい仲間から、色々な事柄を学んだし、私自身、彼らに負けないよう積極的に生きていきたいと思う。

しかし、過去の経験により、研修を受けた後いつまでもその新鮮な気持ちを持続させるのが固難なことを知っている。楽に得た知識は忘れ易いが、寒さに耐えて参加した今回のセミナーは例外になりそうである。また、忘れかけても寒い時に必ず思い出すに違いない。すばらしきセミナーを、また、すばらしき仲間のことを――。

## RYLA セミナーに参加して

小川 和夫

私は、このRYLAセミナーと言う物をまったく知らずにこの余島へやって来た。ロータリーと言うのもわからずに来た。だからそれだけ多くの知識を得たように思う。

たとえば、レクリエーションゲームを数多く、体をほぐす短い時間でできる体操など。

私はBグループの1人として自分を十分表現できなかった事が残念である。しかし私のほかをのぞいては、個性のかたまりみたいな人が多くて、本当に楽しいキャビンタイムを過ごせたと思っている。

またBグループは、菊沢建明先生、林真紀先生とカウンセラーにめぐまれたことを感じた。

先生方から先に立って、わからない事にでも取り組む、それを何のためらいもなくやれるという事は、このセミナーで何かを得ようとする意欲と熱意から来るものだと思うし、そんな人に私は人間的な魅力を感じる。

それからキャンプファイヤーの時、準備や演出をやってくれたボーイスカウトの人達の小気味よい以想と言うか、動きのよさに驚いた。

何の練習もしなくて、あれだけの事はなかなかやれないと思った。

私は4日間を通して、このセミナーで多くの友達と、多くの知識を得た。そしてこのセミナーで学んだ事を明日から何かにかして仕事や友人交際に幅のある人間になりたいと思う。

最後に、このセミナーに参加してたいへん楽しかった。

できる事なら、来年も参加したいと思っています。



宮浦 伸雄

RYLAセミナーに2回も参加させてくれた篠山ロータリーに心から感謝しています。いつも思う事ですが、人と人の出会いが熱く清いものだという事で

す。同じ部屋でねむり、同じ食事をとり、同じ問題に取り組む。今まで見ず知らずの青年同志が、たった3泊4日の研修の中で、心と心のふれあいを持ち、いろいろな人から学んだいろいろな事を、職場・地域に、ロータリーの心を持って、大ぜいの人の為になるよう努力していきたいと思います。

最後に、このセミナーで知り合った方々、道で出会った時は必ず声をかけて下さい！

では、YOSIMAより愛をこめて!!



## 第4回RYLAセミナーに参加して

山内 泰子

私は、松山ロータリークラブに2年半勤め、松山ローターアクトに1年活動していましたが、今だに「ロータリー精神は何たるか？」わからずですが、多くのすてきなロータリアンの言動から、精神的に成長させていただいています。

今回、あわただしい毎日の生活から離れて、水平線しか見えない広い海と空に囲まれた小さな孤島の中で、準備されつくした快適な住・食、そして、たくさんの経験を積まれた完成された人達に囲まれて、まさに大きな灯のもとで、見事な食事がズラリと並んだテーブルに、イスからお皿から、何から何までもう私は自分の手を使い、自分の好きな料理を口に持っていくだけの……それほどまでに準備された3泊4日のRYLAセミナーにおいて、私の得たものは、素晴らしい人たちとの出会いと、ふれ合ったという感動、それと共に一つの生きる道。「Live In This Moment」「この瞬間に生きよ」学生時代の4年間、私はこの言葉が好きで、「やらなかった事を後悔するよりも、やってしまった事を後悔する方が、ずっと人間的です」と言う考えのもとで、4年の青春時代を過ごしました。

卒業後、社会に出て年を取るにつれて、世間体、自衛から行動が小さくなっ

っていました。そういう時期に、二度とない人生のうちの4日間を、新しい境地の中で過ごせた事、心よりお礼を申し上げたい心境です。この4日間の体験をこれからの私の人生の一粒の糧として過ごせる事と確心しています。

このRYLAセミナーに参加して感じた事として、企画者と受講者の間にギャップがあるのではないのでしょうか。企画者があまりにも理想を高く持ちすぎ、受講者がそれに応じる心構えが、受講する前から添えておらずに受講し、セミナーが始まってからRYLAの説明……ロータリー……云々……では、3泊4日が少しもったいないような気がしました。

パンフレットの配布にしても、受講する以前に心構えの準備として案内した方がよいと思います。

また受講者の募集にも少し問題があるのではないのでしょうか。もっと公募して、広く青少年に案内する方法を取ってはいかがでしょうか。そしてまた、このすばらしきRYLAセミナーが、来年も成功される事をお祈り致します。

最後に、企画されたロータリアンの皆様、RYLAに参加でき、今大変うれしく思っております。どうもありがとうございました。

この出会い——一生大切にしたいと考えております。

また、お世話下さったYMCAの皆様、どうもありがとうございました。



## ライラセミナーに参加して

神原 宏子

“ライラセミナー”その意味さえも知らないままに、ましてロータリークラブに関する知識が全くないままに参加した私でしたが、この4日間、非常に楽しく、かつ有意義な日々を送ることができたように思われます。

自主的に参加された方々、私を含め、他からの勧めで参加された方々、また今現在、すでにリーダーとしての活躍をされている方々、これからそうあろうという方々、そしてまた、学生、社会人などと、さまざまな立場から参加され

た多くの人との出会い、これが、このセミナーにおいての最高の収穫であったと私は思います。キャビン内での雑談、この全くの雑談がいろいろな話題を生み、それらを考え、話し合うこと、またレクリエーションを通して親睦という大きな意味のものを得ることができました。

前後致しましたが、諸先生方のすばらしい講演、ロータリアンの方々からのお話しなどから、ライラセミナーの意味、意義、ロータリーに関する知識、最も大切となるリーダー、一個の人間としてのあり方と、お教え、お答えいただき、理解、納得させていただきました。ただ、それらが、ほんの10パーセント程であったにしても……。

私個人として、このセミナーが100パーセント充実したものであったと信じます。また今後こうしたセミナーをどんどん広げより多くの人々が参加、経験されることを望みます。

最後になりましたが、このセミナーにお世話いただいたロータリアンの方々、カウンセラーの方々、そして研修に来られた皆さん、三夜連続で私の落語におつき合い頂いたB班の皆さんに深く感謝致します。

どうもありがとうございました。

.....

## 長 町 昌 代

とっても楽しかった。4日間もアッという間に終わってしまいました。個性あふれるクラスにめぐまれた私は、毎晩のキャビンタイムの時間が楽しみでした。そこにはいつも笑いがあり、いつの間にかみんな友達になってました。最後の夜など朝まで話すほどでした。年上の方々とこんなに親しくなれたのは初めてです。最後には、年令差なんて全く関係なくなりました。みなさんいつも親切に自分の知っていることを教えて下さいました。また、私を1人の大人として見て下さったこと、とてもうれしかったです。

この島にやって来て、多くの事を学びました。ロータリークラブのことにしても、少しずつわかってきたように思います。

3月19日、この島へやって来た時の私から、22日島を離れる時の私は、少しは成長していると思います。ここで学んだことを多くの人々に伝え、私の目標とすることに役立てたいです。そして、多くの人にこういう体験をしてもらいたいです。

ほんと良き友、そして良きカウンセラーにめぐまれたこの4日間、いい思い出になりました。

最後に、このRYLAセミナーに参加するよう進めて下さった先輩、クラブの方、ありがとうございました。

.....

## 秋 田 真 知

皆な、底抜けに明るいなぁというのが、同じ部屋の人に会った第一印象。次にロータリアンがすこぶる元気なことに驚いた。白髪まじりの御年配の方がとても嬉しそうに張り切っておられた。圧倒されそうだったけど、ひととおり紹介が終わる頃、皆なが熱意をもっておられるからなのだと思います。結局、最後まで私たちはこの熱意に支えられていたのかもしれない。

ところで、初めはどんなものか知らなかったから、どうせロータリー独特の雰囲気というものが漂っていて、私に合わないだろうと自分勝手に決め込んでいた。ところがRYLAセミナーというのは、あくまでも自分たちで雰囲気を作り出せばよいのだから、あっさり打ちとけることができた。ここが他のいろいろなセミナーと異なる点ではないだろうか。しかし、この打ちとけることができたのは同じ班だけである。何とか、違う班の人も打ちとけることができる方法はなかったのだろうか。

この4日間をふり返ると、やはり夜の友達とのおしゃべりが一番印象に残っている。遊んだり、学んだり、本当に楽しかった。しかし、先生の話しを思い出して、自分の身についたと思われるものはない。頭で知識としてわかったにすぎない。初め頃の先生の話はよくうなずけたし、あたりまえのことに思えた。でもこのあたりまえの人間の生き方を堂々と教えて下さる先生なんて学校

教育ではめったに見つからない。このセミナーに参加したリーダーや、リーダーになる人は、このあたりまえの事からやっていくべきではないだろうか。暇さえあればアホな話しをして、時々まじめな話し、そして十分に楽しんだが、やるべきときには、少し前まであんなにアホなことを言っていた人たちとは思えない真面目ぶり、これによって柔軟性の大切さを学ぶことができた。遊ぶ事も大切なことだと言われた先生もみえた。RYLAセミナーは、型にはめないセミナーであることが本当に嬉しかった。

今心にあるのは、来て本当に良かったという満足感。具体的にわからずにはこれからだけど、これから徐々に得たものの、素晴らしさを自覚して行けるだろう。人との出会いに関して言えば、まだずっとこのままでいたいが、本当はこの4日間ぐらいが丁度よいのかもしれない。この4日間に出会った一人一人の生き様を忘れないようにしていきたい。

.....

## 井上美紀

感激とは少し違うと思う。たとえば潮が満ちてくるように、少しずつ何か心が心の中にも満ちてきつつあるのです。それは何だろう。

私の感情はいつも内攻します。投げつけられたものをはね返すことができず、それを抱いたまま沈んでしまうのです。きっと私は翔べないだろう。私の中にもう1人の私がいて、さめた目で私を見ているのです。それが何もかも、おじゃんにしてしまうのです。

そんなわずらわしい自分を焼きつくす程の激しいものがあるかもしれない。みんなと一緒に笑いころげていられたら、それだけでもいい……ここにいる間の船の中で考えたこと。

4日目の朝……こうしていると、とても静かです。でも1人でも今までみたいに肩をはらずにいられます。オレンジ色の電灯の下でみんな笑っている光影が一服の絵のようにかんできます。

心の中に満ちてくるこの名状し難い喜びをひめて今日帰ります。今度会う時には、もう少し大きい人間になっていると思います。

このすばらしい機会を与えて下さったロータリーの方々に感謝しています。



## C・C'グループ



## RYLA セミナーに参加して

カウンセラー 安 平 和 彦

RYLA セミナーにカウンセラーとして初めて参加させていただきました。

素晴らしい自然に囲まれた余島において、最高のプログラムを経験できた青年諸君は幸せであったと思うと同時に、このようなプログラムを準備していただいた今井先生、坂本ガバナー、深川先生を始めとするロータリアンの諸先輩の御努力に心から敬意を表するものであります。

実際、年令も、仕事も、住むところも、すべてに異った青年諸君が初めて出会い、青少年活動についてのそれぞれの経験や悩みを語り合い、学び合うということは、素晴らしいことであります。きっと青年諸君は、このセミナーのなかで、何かを掴み取って帰ってくれたものと思いますし、私自身も又、諸君とのふれ合いのなかで、教えられ学ぶところが多々ありました。

私と加納先生は、グループのリーダーを指名したり、最初から決めることを求めたりすることは意識的にしませんでした。青少年活動のリーダーとして活躍している諸君のことですから、リーダーの存在が必要であると悟れば、自然発生的に、或い民主的な方法によって人為的にリーダー達のリーダーができることを期待した訳です。残念ながら、Cグループにおいては、最後までリーダーシップをとる人は現われず、逆に、最後の夜のキャビンタイムでは、一カ所にまとまることもできず、バラバラに過ごしてしまいました。この原因は、主として私自身のリーダーシップの不足にあると思いますが、Cグループの諸君においても、その原因を見極わめ、今後の活動の教訓としてほしいと思います。

それにしても、開講日前日からの4泊にわたる泊り込みは、合計睡眠時間が18時間余り。タフには自信のある私もいささか疲れしました。

最後に、私が不慣れなために足を引っ張るばかりであったのに、いやな顔もしないで始終お助けいただいた、美人カウンセラーの加納先生に、おわびかたがた厚くお礼申し上げます。

## RYLA セミナーに参加して

カウンセラー 嘉納 洋

お元気にそれぞれの場で御活躍の事と存じます。

美しい余島での収穫がチョッピリ芽を出しかけている頃でしょう。

ライラも重ねて4回、拙ないカウンセラーながらその都度、島に集まる全ての方々から何かを得て帰路につける事を深謝しています。

今回参加して、今までになく若い人達が、全ての面で大変恵まれている事に痛感させられ、しかしその恵まれ方は果して本当に幸せな事なのかと、些か疑問を残した事でした。素晴らしい問題を提供してくれた人、真剣に悩みを訴えてくれた人、それなのにとことん問題を、悩みをつきつめてみようと言うものがないのは何故か？これが駄目ならあれがあるといった、上手く泳いでいける背景や、次々恵まれ過ぎている故ではないかと、恵まれすぎた、こわさと言ってよければ、そんなものを感じました。時代がそうだから、と答えてくれた人もいました。

青少年活動の指導者として、それぞれに素晴らしい才能をお持ちの皆様に、もう少しハングリーな精神があれば……と思うのは、一時代前のオバさんの戯言なのでしょうか。

良い講議を耳にし、各地から馳せ参じた先輩、仲間との出会いを大切に、その中から若い人達はそれなりに得たものを消化して、あたためていらっしゃる事でしょう。これからの長い人生、ここでの経験がきっと役立つ事を祈りつつ心身ともに御健康な御活動を期待しております。

＝ ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

柏谷元勝

私は今回初めてライラセミナーに参加させていただきましたが、非常に有意義な4日間でありました。

私は淡路ローターアクトクラブから参りました。私達のアクトからは毎年2～3名の参加があり、今までに来た人から話しは聞いていたのですが、これほど設備の充実したすばらしい環境の所とは思いませんでした。

今まで名前だけしか知らなかった組織（YMCA、ボーイスカウト、etc）に属する人たちと出会い、その人達がどういう考えで、その組織に参加し、活動しているのか、どんな悩みがあるのかといった事を話し合いました。

講義は3回とも非常に興味深いものでしたが、中でも3日目の武田先生の御講義はユーモラスな中に（今井パストガバナーのお話しにもありましたように）選手や子供達に対する深い愛情が感じられて、感動的でした。

＝．．．＝．．．＝．．．＝．．．＝．．．＝

## RYLA セミナーに参加して

亀山明位

自分は、何にでも参加しようとして来てたが、3泊4日で短いけど、講演を聞いて、自分のこれまでの体験、セミナーでの体験、考えた事。

リーダーと言うのは、人間だからいろいろ違いはあるが、僕の考え方の中に“自分の常識を人に押しつけるな” 何からだったが覚えていないが、自分にとって“こうだ”と決め、他人は“いや違う”となるだろうと思う。

大きな輪ができた。このセミナーでの出会いを大切に、これで終わりと言うのではなくに続けて行きたい。

＝．．．＝．．．＝．．．＝．．．＝．．．＝

山本真一

財のあるものと無いもののが、真にわかり合う事ができるのか？

否定から可能性へ、このセミナーが示してくれたのではないかと思います。財のみならず、時間・能力 etc. …… 全てあるものと無いものに関り合い、活かし、活かされるかにも同様のことと思います。

一口に青少年 といってもいろんな立場、考え方の人があること、話すことができ、その中で、共通のものをみつけられたのではないかと思います。しかし、この可能性をどう現実、具体化していくか、僕たちの態度にはきびしいものが求められていると感じられた。

この会を帰ってどうわかちあうか、いまそこから START。

※※※※※※※※※※※

## 第4回ライラセミナーに参加して

竹 崎 洋 一

私はこの研修会に参加する当たり、R.1267, R.1268地区の各地で、どんな人達がどんな実践活動を行っているのであろうか、又どんな出会いがあるだろうか、大変期待を持って参加した。

オリエンテーション、その後のオープニング・パーティー。初めて会った皆と接する役目を充分果してくれた。又、キャビンタイムでの自己紹介、Cグループでは充分に時間をかけて行った。それで短い時間でお互いを早く知る事ができた。

この研修会の講演の中で、深く印象に残っている言は沢山あるが、その中で特に「いつも相手の立場、気持ちになって物事を考える」という言葉は、あたり前の事であるようだが大切な事だと、私は深く感じました。

第4回セミナーのメインテーマである「リーダーとしての心がまえ」については、各グループの検討された内容の中のリーダーとしての役割の中で、指導者は常に学習、経験を重ねなくてはならないが、その反面、良き後継者を養成しなくてはならないという大きな指令もあると言う事と、実際子ども会などの指導を行っている場合、子どもからリーダーとの関係は1対1であるが、リーダーから子どもとの関係は、1対多数であるが、子ども1人1人には、長所もあれば短所もあるだろう。子どもの心理として何か良い事をしてリーダーにほめてもらう、そうすると自分から進んで行って、力を伸ばして行きます。そう

いう子どもたちの素晴らしい長所を早く見抜き、それを伸ばしてあげる事も大変重要な事だと思います。

本研修会に参加して、熱心なリーダー、すばらしい行動、3人の先生の実践を含めた講演、各グループからの発表、カウンセラーの先生の適切な助言、また沢山の事を私はこのセミナーで得ることができました。私が実際、現場に帰って行くようでも大きくプラスになると思います。派遣下さいましたロータリークラブの皆様、運営して下さいました諸先生方、大変ありがとうございました。



#### 第4回RYLAセミナーに参加して

村上佳邦

ボーイスカウト、ボランティア、青年団など、青少年活動の経験が皆無である私は、このRYLAセミナーに参加するに際して、不安と期待が交錯していました。特に大部分の人たちが過去、または現在も青少年活動のリーダーとして活躍し、明確な目的意識を持っておられるにもかかわらず、私はこのセミナーの目的も知らずにいました。

しかし、色々な立場の色々な経験をした人たちの各個性的である価値観を知り、一つのテーマについて意見交換をして、あらゆる方向からみるという見地に立つことで、自分のものの考え方に幅が生まれるのではないかと思います。

私も、この4月から公務員として働くのでありますが、このRYLAセミナーで学び、吸収した知識を参考にして、今後の人生を“虎穴に入らずんば虎児を得ず”の精神でチャレンジしたいと思います。



戸田丈史

神戸からの船の中で、坂本ガバナーからロータリーの精神を教えていただき、わからぬながらも理解することができました。

余島でのセミナーでは、グループごとに分かれ、全々見知らぬ人との出会い、

少しの不安もあり、期待もありました。

キャビンタイムを通じて、仲間意識が生まれました。

第1回の講演「国際理解」岩村先生により、生きるとは分かち合う事、本当の良い人とは、頭が良い事ではなくて、人の為に役に立つ人、人の憂いを自分の憂いとして考える。同じ立場で考える。その国の特色を生かす事などいろいろな事を学ばせていただきやした。

第2回の講演「社会と青少年」江橋先生によって、判断力、決断力の必要性、徳目主義の理解、目標へ向けて努力、リーダーシップのとり方のいろいろ、受身の姿勢の大切さを得る事ができました。

バスセッションでも、「リーダーとしてのあり方」「ロータリーとの協同とは？」という議題で、密度の濃い内容で誰が進みました。

初めて責任者の学び合いの場に参加して、こんなに学べたのでとてもうれしく思います。ここで学んだことを、自分なりに消化して地域へ帰って実践して行きたいと思います。

有意義なこの3泊4日、本当にありがとうございました。



## 第4回RYLAセミナーに参加して

堀 紀 弘

第4回RYLAセミナーに参加して、最初から最後まで初めてのことや、驚きの連続だった。そして、その中でも特によかったと思うことは、多くの自分よりも年上の人といろいろな話しをすることができたことや、たくさんのお話が聴けたことだと思う。

これまでは、10才も年上の人だと“おじさん”というイメージしかなかったけれども、こういう人といろいろな話をして、一緒に4日間を過ごしてみて、これからの自分のあり方などについて、とてもよい参考になったと思う。

年上の人と、こんなに親しく、それも年齢の差をあまり感じないような関係

になったのは初めてのことだけれども、これから先、社会に出て行ってからは、やはり、もっと年のはなれた人とも付き合っていかなければならないだろうし、すごくよい経験になったと思う。

第1日目のキャビンタイムでは、自己紹介から始まって、次々と話が展開して行き、夜おそくまで何時間もかかって話し合いをした。リーダーとしてのあり方について話し合ったバズセッションでは、少人数で本当に全員が真剣に、自分の知っているかぎりのことを出しつくした。

2日目、3日目になってくると、もうお互いにとけこんで、次々とよくこんなに話すことがあるものだと思うくらい、たくさんいろいろな話をする事ができた。そのことが、今いちばん心の中に深く残っており、大変ためになったと思う。

最後に、このセミナーに参加できて良かったと思う。



#### 第4回ライラセミナーに参加して

土 田 吟 一

3泊4日の研修で、自分は多くの人から貴重な知識を得られ、本当に良き日々を過ごす事ができた。

思えば研修前、自分のやってきた地域におけるボランティア活動や福祉活動が改めて自分のものとして考え、活動を続けて行く上で大きな知識を得られた。

出会いで始まり、講師の先生方のお話は勿論の事、巡礼フェイェーでの一言一言のアドバイスは、自分がやってきた活動の再認識、そして自分の求めていたボランティア論が当たった喜び、それは自分自身の今後の活動をして行く上で大きな自信となった。

青少年養成においても、リーダーとしての役割や義務についても、多くの人との共通した意見を参考にして、自分自身が団体に合った良き方法を取り入れて取り組みたい。このようなセミナーに、また自分の地域の青年たちや指導者を心ざす人たちを送り込みたい。



## 第4回ライラセミナーに参加して

伊 藤 博 之

本日これを書く以前、朝C班の一部は日の出を拝みに海岸へ行ってまいりました。そのメンバーは、性別、年齢、職業、所属団体、地域、そのすべての異なるものでありました。

現在、各地で多くの団体、多くのリーダーが活動を行っていますが、それらの枠を越えた交流の場が持たれておりませんし、それは困難な事であります。しかし、このRYLAでは、それらの枠を越えたリーダーがロータリークラブの推薦により、わずかですが一堂に集まる事ができました。このような場を大切にし、また、このような場がより多く持たれる事を期待します。

これを機会に知り合えた人々と、今後とも連絡を取り続けたいと思います。

※※※※※※※※※※※※

安 藤 義 之

今回のライラセミナーには、余り予備知識もなく参加させて頂きました。

「青少年指導者講習会」と言っても、ボーイスカウト、YMCA等に所属している訳でなく、個人的にボランティア活動もしていないので、最初は不安であった。しかし、最初のキャビンタイムが終わった時点で、同室の人には親近感を感じ、第二日目にはC班の全員と気軽に話しができるようになった。

セミナーを通じて知り合った人等との出会いを大切にしたい。

※※※※※※※※※※※※

金 尾 邦 彦

第4日目の竹田建教授の講義（まんざい？）を聴きながら感想文を書いています。何んやかやと勉強になった、体得したと感じたことを、神経を集中、まとめよう、まとめようと努力しながら書いております……が、まとめられませ

ん。小生の頭が悪いのか、竹田ま<sup>・</sup>ん<sup>・</sup>ざ<sup>・</sup>い<sup>・</sup>が書かせてくれないのか、はなはだ疑問です。

そ~~~~れでも、まとめて

4日間の成果を一いただいたオリーブの苗木が実をつけるまでに一つでもあげますよう行動します。

最後に、バラキ女史にバンザイ!!

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

石川美伸

このセミナーは、もうフィナーレに近づいています。そして私の頭の中には帰ってからの活動がえがかれる。

4日間の中で得たものは？ 学びとなったものは？ いろいろ考えてもまとまりません。要はリーダーも下の者も同じ人間である。そして仲間である。相手の痛みは自分の痛み、僕はどんな時、どのような場面でも、相手の立場から物を考えてみよう、そしたら少しは心がわかってもらえよう、より人間的なふれあい求めてみたいと思う。

昭和57年3月22日 午前11時13分 さようなら

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

永井敬裕

人間、数人集まれば、それぞれの性格の持ち主、多種多様の人物が出そろうものであると思う。そういう集団を運営することは、一朝一夕にできるものではない。そういう状況の中、リーダーはやはり必要であるとともに、自然に作り上げられていく。

元来、集団ある所に必ずリーダーはいるし、いなけりゃその集団は骨ぬきになるだろう。そして、リーダーは必ずしも万人すべてが出来ることではないと思う。だから、ひとたびリーダーになった時、その立場は責任が重い。大変重

い。それがゆえ、人の上に位置できる。

第4回RYLAセミナーは、我々にとって、ただ単にリーダー教育の場でなく、青春の1ページとしての良き友人作りの場でもあったと思います。

今後、この企画が続く事を願っております。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

## ライラセミナーに参加して

公文恵子

幼い頃から、リーダーシップに欠ける生徒だと言われていた。人前でしゃべる事がいやで、個人的には行動ができて、集団のトップに立つことはできない性格だった。

大学へ入ってから、現今の大学生の“同好会志向”の風潮に乗りたい人間の一人であったし、トップに立つよりも、個人的にエンジョイするプライベートな時間を少しでも持ちたい人間のひとりであった。

しかし現実問題として、1年後にはサークルのリーダーにならざるを得ないし、リーダーになった以上は、リーダーとしての自覚を持ち、リーダーとしての義務を遂行しないと思う。またサークル以外でも、何らかの形でリーダーになる機会も多いだろう。そのためにこのRYLAセミナーは、有意義な4日間を提供してくれたと思う。講義はもちろんの事、さまざまな人と知り合い、さまざまな意見を聞くことができた。

「リーダーの条件は、人間向上の条件である」という言葉が感銘的だった。

今まで同じ香大内や他大学でも、同種のサークル(E.S.S)の人たちとしか接する機会がなかった私にとって、いい意味でショッキングな出会いであり、すばらしい4日間だった。ちょうど一週間前、広島で行われたサークルのオープンセミナーでの4日間も強烈な印象を残している。同じ大学生、同じサークルでありながら、各大学のカラーというものをまざまざと見せつけられたような気がしたし、他大学の学生の考えというものが新鮮に感じられた。

今回、さまざまな分野で活躍されている方や個性的な方、また、私から見るとずいぶん大人の方もいらっしゃって、その方々の貴重な意見が聴けて、まさにラッキーだった。時々すさまじいばかりの恐怖感(?)におののいたこともあったが……。

余島を離れても、しばらくの間、余韻が残りそうである。高松の下宿に帰ると、ひとりの夜を有意義に過ごしたい。あたりが静まりかえってから「思索の時間」を楽しみたいものだ。

最近、大好きなことばが“Let's live in this moment / ”である。4日間ははやかったが、密度の濃い毎日であった。いろいろな人に感謝しながら さようなら。



## 坂 井 季 子

R Y L A セミナーに参加することができましたことを、まず感謝致します。どうもありがとうございました。

日頃、仕事・歌の練習・家事と、時間に追われる私にとって、この4日間は大変貴重な時となりました。Y M C A、青年団、ボーイスカウト、教員等、各分野の方々と出会うことができ、友となることができました。すばらしい講演を聴くこともできました。これはR Y L A セミナーだからこそ実現することのできるものだと思います。とても、これだけの講演を実際、個人的に聞きに行こうと思ってもなかなか困難なことです。

又、たっぷり時間をかけ討論することにより、考え、意見を述べることができ、改めて自分を見つめ直すことができました。そして、レクリエーションでの夢中で造った陶芸、皆さんとのおいしい楽しい食事、海を見つめながらの思索の時間、それにキャンプファイヤ…… 数々の思い出が、今巡っております。

最後にこのセミナーで得た知識、経験をしっかり栄養分として吸収し、エネルギーとして活用していくことをお約束し、又、お世話になりましたロータリーの先生方、カウンセラーの方々にお礼申し上げます。

## ライラセミナーに参加して

永井秀子

今日の午後島を離れます。どういうわけかいいお天気で、昨日までが嘘のようです。いろいろな地方から、さまざまな人間が集まり、わずか数日の間にお互いに友人になることは、普段の生活からは考えられません。今、めぐり逢いというものの大切さを感じます。

4日前、あの小豆島から船でこちらに渡る時、誰が夜を徹して語りあかすことを想像できたでしょう。

この4日間で最も緊張したのは、フォーラムでの発表です。たくさんの方の前で、それもロータリアンの方々のいらっしゃる中、全く下手な発表をお聞き下さりありがとうございました。けれども、私にはとても良い勉強になりました。話す事のむずかしさ、私は皆さんに興味を持って頂けるように話す事もできず、特にCグループの方は、「僕だったら」「私だったら」「もっと上手にできたのに」と思ってらっしゃったかもしれません。そう考えると、本当に恥かしくなります。だけど度胸だけはつきました。

もう時間がないので書けません。又、会う日まで……



増田 さゆり

今日は、RYLA最後の日。

今朝の目覚めのなんと爽快であったことか、と言いたいところですが、実際はその逆で、気分がすぐれません。自分の身体さえも管理できないようでは、リーダーとしては失格です。

しかし、このRYLAセミナーを、精神的に爽快な目覚めにしたいと思いません。このセミナーで出逢ったいろいろの方から得たこと、今まで忘れていたことを、もう一度確認し直して、がんばろう。

## ライラセミナーに参加して

森 本 直 子

わずか4日間で、これほど濃密な体験ができるとは思ってもみなかった。自分の日常生活では、到底巡り会うことのできない人々と出会い、話を聞き、その人達の信条にふれることができたという事は、この後の人生の大きな支え、また、発展の鍵になると思う。キャビンごとの討論では、回りの人々があまりにも立派に自分の意見をもっているのに圧倒された。

まだまだ未熟で、リーダーになるのにはほど遠いですが、ライラで学んだ事を生かしてこれから先、がんばっていきたいと思う。

カウンセラーの先生がた、どうもありがとうございました。



山 本 直 子

瀬戸内の波にも春らしさの漂う3月の19日～22日、私は香川県の余島でのライラセミナーに参加させて頂きました。青少年指導者育成の為とあって、プログラムは講義、交流会、討論会、野外活動……とハードながらも非常に有意義で楽しいもので、穏やかな小島での3泊4日を気持ちよく過ごせました。

20数名の地方色豊かな班員との出会いからは、色々な形のボランティアを知らされ、私たち自身の活動に於ても考えさせられました。その中でセミナーのテーマ「リーダーとはどうあるべきか」は、情熱と人間的魅力を問い直し、今後の永遠の課題として託されました。

一方、もう一つのテーマ「ロータリーと協働できることは何か」については生きる糧、心の豊かさを与える活動があげられました。

人間誰しも奉仕したくない人はいないので、活動したい人だけのセミナーではなく、知らないでいる人、契機の掴めないでいる人のための機会作りこそ協働しなければならないのではないのでしょうか。贅沢を求めている訳でも

なく、物で釣られずとも、意志と機会さえあれば奉仕の芽は育つのですから、ロータリーが、国民が何らかの形で奉仕できる機会作りをして下さればと願っています。ロータリーの存在すら知らなかった私は、正にこのセミナーで目を見開かされ、これを境に本当の意味での奉仕を知るようになった一人でしょう。本当に有難うございました。



# D・D'グループ





## 第4回ライラセミナーに参加して

カウンセラー 山本修三

クラブの副会長から、ライラセミナーにカウンセラーとして参加してほしいと依頼を受けたとき、正直いって私自身どんなことをするのかとまどいました。しかし説明を聞いて、若い指導者達とともに余島という素晴らしいキャンプ場で語り合うことでよいと言うことなので、自信はありませんでしたが引受けた次第です。島に着いた直後は、お互い知らない者同志が、オープニング・パーティーの素晴らしい料理とビールですっかり雰囲気が盛り上がり、キャビンタイムではアルコール類の持込みも許されたせいもあって、外は春先の天候不順で少々寒むかったにもかかわらず、色々討議している内に熱気がほとばしり、夜のふけるのも分からない位でした。年令的には自分の息子達と同じ位の若者と語り合う事によって、私自身大いに参考になりました。

セミナーに参加された指導者の皆様が、それぞれ立派な見識を持っておられる事を知り、大変心強く思いました。

ただ私自身、「テーマ」をあまり厳格に考えすぎて、後になってもう少しそれ以外の、たとえば政治、経済、社会問題等も話し合ったら、より収穫があったのではなかったかと思っています。

セミナー全般については、今井先生始め諸先生方の献身的なお世話のもとにキャンプファイヤーを囲んだり、高名な講師の方のお話を聴きながら、あっという間に4日間が過ぎさりました。

私はこのライラセミナーを通じ、ロータリー活動のすばらしさを学ぶことができました。

最後になりましたが、皆様の御健勝と、このすばらしいライラセミナーが回を重ねる毎に、益々盛大に開かれんことをお祈りして、お礼のことばとさせていただきます。

## 第4回RYLAセミナー運営委員会

### R. I 第267地区

ガバナー	谷村健助	島井宏行
	梶浦暉一	田之内隆
	江藤一明	井上昌俊
	吉本功	神原良次
	長岡道祐	

### R. I 第268地区

ガバナー	坂本智元
青少年奉仕担 当諮問委員	執行孝胤
顧問	今井鎮雄
	深川純一
	高木正徳
	中馬勇
	橋本勲
	辰馬章夫

### カウンセラー

井上昌俊	橋本知詠子
菊沢建明	嘉納洋
安平和彦	林真紀
山本修三	前田美智子

「余島は少し寒むかったが、瀬戸の海風は、春の香を孕み、桜の蕾の粒立ちに、ほのかな紅を見た」。これは、始めてライラセミナーに参加した3月18日の余島のスケッチです。

ロータリーの青少年奉仕活動のことを、話には聞いていましたが、この度、何の心構えもなしに、ライラに参加させて頂き、その意義が強烈に私の心をゆすぶり始めました。人々との出会い。美しい自然の中で、リーダーとしての若人達の限りない可能性を育むために、ロータリーの方々の綿密な計画による自主性尊重のスケジュール。3日間に、これ以上望み得ない充実した講師陣。ただ感嘆することばかりでした。四国山脈に隔てられた一地方の平凡な主婦にとって、この上ない感激と、驚きの4日間でした。

「ブルジョアのお道楽」と思っている人々も多いロータリーの事業の一つであるライラが、このように素晴らしい企画によって、若人の育成に、惜しみない奉仕活動が続けていることを、社会の人々に一人でも多く理解してほしいと思います。3年前から、ライラに参加された方々の植えられたオリーブの木々が新しく枝を伸ばし、緑の葉裏を返しつつ、しっかりと大地に植付いていました。ライラを巣立った方達が、その数を増し、広い視野に立つ心豊かな指導者として、社会のために活躍され、ロータリーの投げかけたライラの波紋が、年ごとに大きくなり、余島からやがて世界にむけて広がっていくことを確信いたします。何も判らず、しかもカウンセラーとして参加させて頂き、諸先輩ならびにロータリーの皆様の足手まといになったことを、深く反省するとともに、このライラに参加された皆様の暖かい御支援に心より御礼申し上げます。

---

松 本 武 彦

私は今胸が熱くなっている。それは今回のライラに参加させて頂いて、心の中に赤い小さなもしびが燃え始めたからである。

本来人間は、自分から進んで他人のため、可愛相な人のために働きかける気

持ちはあるが、現在の時代ではしない人が多いのではあるまいか。

私達は今回のゼミナーにより、第3の波という本のことを知り、又現在は高度工業化の時代に入り、このままでは益々孤立化、閉鎖化、固定化社会となり明日の時代はこのままでは予想もしない危機をはらみ、問題をかかえていることを改めて教えられ、感じた。連帯の時代の社会人として共に生きるため、私達はこの時代に今なにをしなければならないか考えさせられた。

ロータリーのテーマ「ロータリーを通じて世界理解と友情と平和を」ということを聞き、心をうたれるとともにさすが広い視野をもったロータリアンの集まりだと思った。私達も目を世界にむけるとともに一人一人があのかんぷファイヤーのタイマツのように力をあわせ、手を取りあって行きたいと思う。他者のために小さなことからでも止を分かちあい、働きたい。

又、キャンプファイヤー等において超一流の方々より人生教訓のエキスとも言うべきお話をうかがい感激した。又、ロータリー活動綱領について勉強することができた。私は心の中にともった「ともしび」を職場にかえり、地域社会に於て家族、隣人、毎日接する青少年の人々と交わり、語り、一人一人の力を大きな輪として燃えさからすように努めるつもりである。それが又ロータリアンによる今回のライラで教えられ、学んだことに対する心のお返しと思う。私達とロータリーの方、お互いの人間関係、組織を通じて地域社会のため、しいては世界理解のために、友情のためにつとめる。自からそこにロータリーと協同できるものは何かの答えが、よく考えれば出てくるものと思う。ロータリーの皆様、本当に有難うございました。

---

## 長谷川 敏 彦

私がこの研修を通して学び得たものは、大変有意義なものであった気がします。たとえば人の幸福をも考えるというロータリーの先生方の考えはとても大切なことだと思います。

経済の発達、生活の向上についてどうしても忘れられがちな思いやり、人と

人とのふれ合いをもう一度見直す機会をもてたと思います。

この他にも、指導者としての条件についてです。すばやい判断と決断力は基より、下の者を包み込むやさしさが必要だと思います。

その他にもいろいろな条件が当然たくさんあるでしょう。ただこの二つが基本となると思います。

そのような事をこの研修会で学び、そしてこれからはその一つ一つを確実に身につけていきたいと思っています。

その他にもう一つ講話では学べないことを学びました。それは人のふれ合いであります。昨日まではまったくの見知らぬ人であった人たちが、それも北は兵庫のはしから南は高知県からです。こんな離れた人々が研修の終わりには、みんな友だちとしてのつながりができています。

最初はどんなに小さくてもかまわない、そういう小さな輪をより大きくひろげることが、人々の幸せにつながると思います。

＝・＝・＝・＝・＝・＝・＝

## 小 西 美 都 司

僕は現在社会人です。当然の事こういう人々のふれあいに会う機会が昔より少なくなりました。だから、そのようなふれあいを求めてこの研修会に参加いたしました。

睡魔とたたかいながら聞かせて頂いた諸先生方の講話、同じ年代、若い年代、お年をめされた研修者の方々の考えや意見などの有益な部分を、自らの血や肉とし、自らの肉体を地域のために提供しようと思います。このようなふれあいの他にもずいぶんプライベートのふれあいも体験しました。

ついこの間までは、存在すら知らなかった人たちが、今晚東の空がほんのりと色づく時間までも、酒を組み交わし、人生論をたたかわせ、お互いを深めてもいきました。

僕たち一人一人が1本のローソクのようなものです。落し物をながすのに1本のローソクでは暗すぎます。その灯が2本、3本とふえるごとにさがし物は見つかりやすくなるものです。僕たちはそんなローソクとなり、より多くのローソク

に灯を広げ、より広い範囲の世の中に灯りをともす。そういうものになりたい  
と思います。

＝．．＝．．＝．．＝．．＝

## 余島での四日間を通じて

西 上 富 三

私は、余島での4日間を人と人の和を大切にして、いろんな地区の各リーダー  
とお話をさせてもらいました。

ロータリーの何も知らずに、そして又、余島がどんな所かも知らずにのこの  
こやって来た私は、見る物、聞く事が全て心に焼きついて行きました。

そして、ロータリーの団体が我々青年団、ボーイスカウト、教育委員会 etc  
のリーダーとどんな関係、また共通点があるのか？ 何故と思いましたが、4  
日たった今、何となくわかったような気がします。

各地のリーダーと話し合った4日間、酒をくみかわした若人たち、そしてカ  
ウンセラ……。良き思い出であり、この余島で学んだ多くの事を1つでも実行  
していきたいと思います。そして各リーダーさん、体に気をつけて、良きリー  
ダーシップを取りましょう。

ではお元気で頑張ってください!!

＝．．＝．．＝．．＝．．＝

浜 内 恵 一

海とオリーブの島・小豆島の一部、いや付録のようなこの余島に来ての4日  
間、毎日々々私の中で発見と変革が絶え間なく続いた。職場でも家庭でもみえ  
なかったもの、いやみつけられなかったものが、次から次へとみえてくる討論  
の重要さが分かりました。

その他にも、この4日間を振り返ってみると、思い出に残ることが沢山あり

ます。まず初日の豪華なオープニング・パーティー、夜を徹して語り合ったキャビンタイム、その中でも特に多くの事を学んだバズセッション、並びにフォーラム、あらためてリーダーシップの重要性、難しさを感じました。

とにかく、この余島に来ての4日間は、私の中にある碑の中で、ひととき大きな碑になることと思います。

～．～．～．～．～．～．～．～．～．～

## 上 田 哲 也

今回のセミナーは、青少年グループにおけるリーダーシップについて考えると言った主旨のものであったので、初めはどんな堅苦しい事をやるのかと多少心配だったのですが、この島に着いてグループ別に分かれて行動を開始すると、そのような不安はアッとと言うまにどこかへ行ってしまいました。

ここ余島は、バンガローの窓から外を見れば、すぐそこに海が見え、高台に登ればはるか四国が見えるという、すばらしい所で、しかも島内の活動は、大いに個人の自主性を認めた自由なプログラムが組んであり、大変気に入りました。そしてまた、アッとという間に4日間が過ぎてしまいましたが、この4日間にはたくさんの事を勉強させてもらいました。講師の方々の講演はもちろんのこと、他の青少年グループのリーダーの人々との交流によって、これからの青少年グループの指導から、自分の人生までについて大いに教えられ、考えさせられました。これらの問題の解答がいつ出るかはわかりませんが、少なくとも自分のこの間までの生活に活を入れられる思いでした。できることなら、また来年もこのセミナーに参加したいものです。

～．～．～．～．～．～．～．～．～．～

## 大 下 淳

私は、このセミナーに参加することが決定してから、いざ余島へ来るまで、一体何をどのように勉強するのだろうかと不安であった。

来島してプログラムを説明されて、このセミナーの根本精神に賛同してしま

った。できるだけ自由・柔軟な活動を約束し、思いきり議論が成されるように機会を与えて下さったことに対し感謝いたします。いろいろな人達を知り、また同じ立場にある人との親睦も深められ、今後の活動についても勇気を与えられたような気がします。

さらには、有能なる講師の先生の実践味にあふれた価値あるお話を頂きまして、本当に運がよかったと喜んでおります。

自分の無能さのため、得て帰るものは数多くありませんが、しかしながら、重要なことは得たと、自分なりにうめぼれています。

今後、リーダーシップを握る道を歩み続けることに変わりありませんが、このセミナーで得たことを十分に活かせるよう頑張りたいと思います。

最後に、このセミナーの運営にあたられました関係者の皆様に対して厚く御礼申し上げます。

～・～・～・～・～・～・～・～・～

## ライラセミナーに参加して

龍 川 修 介

ローターアクトに入会してまだ間がないので、RYLAもロータリークラブも、何の余備知識もなく参加しましたが、少し「姿」が見えてきたような気がします。

事情により、2日目の昼から参加しましたが（どうにもならなかったのですが）、できれば最初から参加したかったです。

今、振り返ってみると、自分の未熟さを痛感させられ、また、自分のやっтерることに確信がもてたような気がします。—— 少しですが ——。

感想といってもまとまったものがなく、思いつくまま書きましたので、まとまりのないものになってしまいました。

自分のできる事はたかが知れていますが、まゝ一生懸命やるつもりです。



## R Y L A セミナーに参加して

遠 藤 庸 輔

このセミナーに参加して感じた事は、私が事前に R Y L A について、ロータリアンとか、パンフレットから得た知識の青少年のリーダー云々……ということでありましたが、私の期待していた青少年という言葉の青年の方のリーダーというよりも、少年中心（結果的にはこれが青年の指導につながってくるであろうとも思います）であったような気がしましたので、私にとっては少しい違いがあった様に思われます。

しかし、そういう観点から離れましても、有意義なお話を聞かせていただき（それぞれの立場は勿論違いますが）、いろいろな点で参考になりましたことは、非常に意味あることだと思います。

私の場合は、どちらかと申しますと、コーチング・テクニック、選手とコーチとの理解（青年のスポーツクラブの場合ですが）について、他人達のお話が聞かせて頂ければと思っておりましたが、最後の武田先生のお話は非常に共通点も多く、逆にここはこうじゃないという点もあり、それなりに考える時間が持てたという事で幸いでした。

最後に、R Y L A に参加させていただきました第 267、268 地区ロータリークラブの皆さん、Y M C A 及びキャンプの職員の皆さんありがとうございました。これからもこの活動を進歩させながら続けていけますことを願います。

\*\*\*\*\*

## 第 4 回ライラセミナーを終えて

松 浦 洋 一

3泊4日のこのライラセミナーは、私にとってこれからの仕事に生かせるだけでなく、自分の人生観に大きな影響を与えてくれました。

思索の時間、諸先生方の講演、キャンプファイヤー ete. どのプログラム

をとっていても有意義で、特に青少年について考えている仲間がこれだけ沢山私たち以外に他方面で活躍していることが分かり、また友達になれて喜んでおります。

一日一日を悔いることなく、充実した日々を送れ、今回ライラセミナーに参加させて頂いたことを感謝しております。

これからも、今回の経験を生かして頑張っていきます。

どうもスタッフの皆さん、ありがとうございました。

\*\*\*\*\*

## 第4回ライラセミナーを終えて

谷川 安弘

ロータリークラブについて認識の上、今回のセミナーについても、どのようなセミナーなのか一抹の不安をもっての参加でありましたが、今回の研修を終えるにあたって、本当に参加できてよかったと思っております。

私は、神戸教育研究センターで「学力・気力・体力の三力の揃った子供達の育成」という弊社の教育理念の下で、子供の真にあるべき姿を考え、「人としての道を大切にし、何事にも全力を尽くして頑張る」子供達を一人でも多く育てようと、今日まで歩んでまいりましたが、ご存知のとうり、公教育の荒廃、校内暴力等の様々な教育問題が指摘され、かつ現代社会においても自己中心的な人達が増えつつある社会を憂慮しておりましたが、今回のセミナーの参加によって、私自身のかかえていた教育問題の解答を得られるとともに、自己犠牲をしてでも人類の平和と幸福のために尽くそうとする「奉仕と博愛の精神」をもった多くの人達との生活の中で、私自身の心がこめられるとともに、社会がどうであれ、私の進もうとしている道には、これだけ多くの仲間達がいるのだということを知ることができ、勇気づけられるとともに、職場に戻っても今まで以上に自分の信じる道を力強く進んでいけるように思います。

最後に、今回のセミナーを企画し、進行して下さったガバナー・ディーン、カ

ウンセラの先生方に心より感謝するとともに、同じグループで深夜遅くまでともに語り、歌い合った仲間達の御活躍と御幸福を心より祈っております。本当にありがとうございました。

---

## 竹 崎 博 幸

まず、私はこの研修に参加できたことを非常に喜びに思い、同時にこのような機会を与えられたことに対して感謝の気持ちでいっぱいです。

R Y L Aは私に本当に沢山のことを教えてくれました。しかし、私の脳の許容能力が充分でないため、すべてを消化することはおそらく無理ではないかと思えます。

また、一部消化できたものも、今後それを実践にどう生かしていくことができるか、帰ってからゆっくり考えてみたいと思えます。そういう意味でライラは授けていただいたものの何倍もの課題を私に与えられたという気持ちであります。

私は、今非常に充たされております。ああ……もう時間がない、今はまだ私の気持ちを整理して書き表わすことは、もはやこれ以上は不可能なようです。皆様も同じようなことを感じておられると思えますので、短いですがこれで終わります。

スタッフ、講師の皆様方、本当にありがとうございました。

---

## 本 田 京 子

今回、「第4回R Y L Aセミナー」に参加するにあたって、あまりにも甘い考えで、ここ余島に来たことをまず第一日目に反省させられました。

わずか4日間のセミナーでしたが、ひとつのテーマのもとにそれぞれ立場の違う若者たちが集い、お互いのねつっぽい意見を交換し合えたことに、いま改

めて喜びをかみしめています。

何よりも今回の最大の収穫は、コミュニティから生まれてくる“新鮮な刺激”でした。それは、自らを振り返って見て反省の対象となるもの、また共鳴を呼ぶものいろいろです。パターン化しがちな生活の中で、私にとって刺激ほど「貴重な教師」はないと思っています。この刺激を感じるか感じないかは、その時の自分の受けとめる姿勢によって大きく違ってきます。

姿勢とは、私にとって、今回のセミナーでも何度か耳にしましたが「ハングリーな精神状態」をいいます。ハングリー……私の好きなことばのひとつです。飢えている人は目が輝いています。何かをいつも求めています。現状に満足してしまったら、それ以上の成長はありません。だから、精神的にできるだけハングリーな状態を保っていたいと思うのです。

今回のRYLAセミナーの開催において、ご指導・ご協力くださった方々に心から感謝いたします。ありがとうございました。

---

## 松 村 千 晶

友達に、旅費も宿泊費もタダで、小豆島のとなりの島に連れてってもらえるから行こうと誘われて、そんなら行ったことのないところだし、深く考えずに付いて来たというのが、このセミナーに参加したきっかけです。

ところが蓋を開けてみたら、考えていたのとは全く違って、参加している人のほとんどは、何らかの目的をはっきり持って参加していて、私みたいに遊びのつもりで来た人間なんていないし、本当に肩身の狭い思いをしました。“どこの団体から来ました？”と聞かれても、何も言えないし、身の置き場がない感じで、もちろん青少年のリーダー養成なんて、私とはまるで別の世界のことのようでした。ま、そこは他人に順応しやすい私のこと、“タダ”という言葉にひかれた自分が悪かったとあきらめて、まるで自分が始めから何かの目的を持って来たように、えらそうな発言をしたりして。

こんな私も、この4日間を通して多くのことを得ることができました。

3人の先生の講演は、どれも個性のあふれるもので、当然のことながら、この機会がなければ、一生聞くことのできないものでした。また数多くのロータリアンの言葉も耳に残っています。

でも、何よりも私にとって大きかったのは、いろんな立場の人と知り合うことができたことです。いろいろな立場での実際の経験にもとづいて、自分のものになっている人生哲学みたいなものを聞かせてもらうことができました。19歳の私にとっては、私より何年か多く生きている人生の先輩の人の声として、どれもこれも、これからの私の生き方に少なからず影響を及ぼしたと思います。

いろんな職業や、いろんな年齢の人間が、夜の更けるのも忘れて語り合い、歌い、こんな経験はきっと最初で最後に違いありません。

4日間を終えて、私みたいな者が、このRYLAセミナーを受けることができたことを、ほんとに光榮に思っています。

これからの私に何ができるかわかりません。ただこの“RYLAセミナー”は私の青春の中の一つの思い出になることは確かです。しかし単なる思い出に終わらすことなく、自分のこれからの人生に役立てていきたいと思っています。



## 土 居 良 子

私にとってRYLAセミナー期間に体験したことは、いつも何らかの鋭い刺激を伴っていた。それは講演を通じてでもあり、年齢を異にする仲間（私はそう呼びたい）からでもあった。なぜなら、私はリーダーとしての経験を持たぬ者であったから。もちろん今まで「長」と名のって役には就いてきた。しかし、大学2年これまで果たして来た役は、単に同年齢間のまとめ役にしか過ぎなかった。“リーダー”としての立場に立って悩みもしたが、青年団、ボーイといった集団を率いる長の立場、あるいは教育者として社会的にも責任の重い立場にある人のそれとは、あまりにもかけ離れていた。そう、経験から導き出

される言葉ほど重みのある物はないと痛感した。

大学2年間を振り返って、直接奉仕活動に参加してきたわけではないが、それなりに大学生としてのあり方は考えてきたつもりである。ただこれから自分の活動範囲、視野をいかに広げていくか、またチャレンジ、努力、思いやり等自分にまだまだ欠けている要素をいかに身につけるかであろう。

大学生には自由に使える自分の時間がある。種々な人に出会い、考え方の違いを知る。研究活動（大げさであるが）を行う。経験から語られる事に対してある意味で理論が無味乾燥に思われるときもある。しかし、それは理論自体が無意味なのではなく、理論と実践を結びつける試行錯誤の段階が十分ではないからであろう。

大学3年、この一年は大学内で各活動の中心となる時である。まずせまい視野だが、そこでリーダーとしての責任を果たしていた。それによって社会に出、大きな意味のリーダーになる素地をつくれればと思う。

教師を志す者として、自分なりの教育に対する理想と信念を理論と経験を通して体得したい。

最後に、このセミナーで出会った人々全員に心から感謝します。ありがとうございました。未熟者の素朴な質問を受け入れて下さり、また熱意を持った目で教育の問題を語って下さったり、そんなキラキラとした瞳を私も持ちたいと思います。

---

## 愛の心の範囲の中で

久保田 篤 子

この4日間の感激を文章で上手く表現できない自分が、とても悔やしく思える4日間でした。

こんな長期で、しかも自分自身をも充実させられた研修に参加したのは、生まれて初めてのことです。

参加する前にパンフレットは頂いていましたので、研修する内容というのは

一応わかっていたのですが、次々とプログラムが始まるたびに感心、感激、共鳴 etc の連続で アッ という間に早くも今日は帰らなくてはいけないという日になってしまいました。

私が、何故この研修会に参加したのか。ロータリーの活動の一つである研修会でもあるにかかわらず、ロータリーというものは、いったい何であるかなんてほとんど知らなかった私がなぜ？ この R Y L A に参加してみようと思ったのか。

私が今、活動している内容の主なものは、青年団と手話サークルです。どちらも自分なりに頑張っているつもりですが、時々思うのです。これで良いのだろうか？ 自分にはもっと他に向いている何かがあるのではないか。でもいったい自分は何をやりたいのだろうか。とこういう風に考えだすと、堂々巡りで、自分では糸口わからずと言う事になって、ついつい考え込んでしまう時が多かったのです。

それで、この R Y L A セミナーのパンフレットを見た時、アラッこれはおもしろそうな研修会だな、この研修会に参加してみれば、何か自分に変化が起こるかなもと思い、やって来たわけです。

余島に着いた次の日の朝、食堂でのロータリアンの方とお話で、さっそく私は自分の持ってきた悩みを言ってみました。するとこう言う答えが帰ってきたのです。

「私達でも本当はわからないのですよ。でも“愛の心”という範囲の中でなら多少方向違いで失敗しても良いし、自分にできるだけの事をしていけば良いのじゃあないですか。」と言われて、非常に感激したのです。

今まで私は、これで良いのかな、もっと違う何かがあるのではと思いながら活動していたので、何にせよ、やり始めると融通がきかなくなると、目標にたどり着くまでに疲れてしまう様な事があったのが、何かしら“愛の心の範囲”という言葉聞いて、私の心に余裕ができたのか、肩の荷が降りた様な気がしたわけです。

それにしても、これだけの人が集まってくるんだから、いろいろな人が居て

当然ですが、本当に人それぞれだなあと痛感しました。

立場の違う人が、各自の意見を言い合うのだから、最初はなかなかまとまらなかつたりもしましたが、それぞれの意見にも感心させられる事ばかりであったし、最後の夜になり、ずいぶん“みんな、もう仲間だー”と言う気持ちになった頃には、また違ったみんなの側面が見えてきたりで、本当に楽しいかぎりです。

ずっと淡路島の中にいる私にとって、島外での研修という事だけでも新鮮な事なのに、プログラム内容も、普段経験できない物ばかりで、心がすごくリフレッシュできたように思います。

この4日間での自分の変化を！ 感激を！ おみやげに持って帰りたいと思います。そして、このおみやげを生かせる頃に、又みんなに再会し、この4日間のことを語ってみたいなあ！

まだまだ感激を書き表わせないのがとても残念。

そして、そして、最初にお話をしてくれた谷村健助さんの様なすばらしいお顔になれますよう！



## ライラセミナー講習会を終えて

岡 本 みつ子

昨年姉が第3回のライラに参加した関係により、今回私はこの第4回のライラセミナーに参加させていただくことになりました。しかし、ロータリーのロの字も知らなかったわけで、姉に話しを聞いても、とにかく食事がすばらしかったということの他には、なんともつかみどころがなく、とにかく参加してみないことには、どこからどうよかったのかわからないと思い、思い切って参加してみることにしました。と言ってみても、結局たまたま何にも知らない友達をだましだまして、引きずり込んだわけですが……。



そんなわけで、このライラでは始めからびっくりさせられ通しであったわけです。高松駅に到着して、これからいったいどこに連れていかれるのかもわからないままに連れてこられた余島という所は、なんとも離れ小島のまた小島という感じで、これは逃げれない／＼と思わず思ってしまったほどです。

そして、まだまだ私の驚きは続きます。ロータリアンの方々のお話を聞くたびに、そして集まっている仲間たちと議論をかわすたびにまず驚き、自分の未熟さに落ち込んでいくのです。先生方の講演にきたら、もう開き直りの境地に達するほどです。

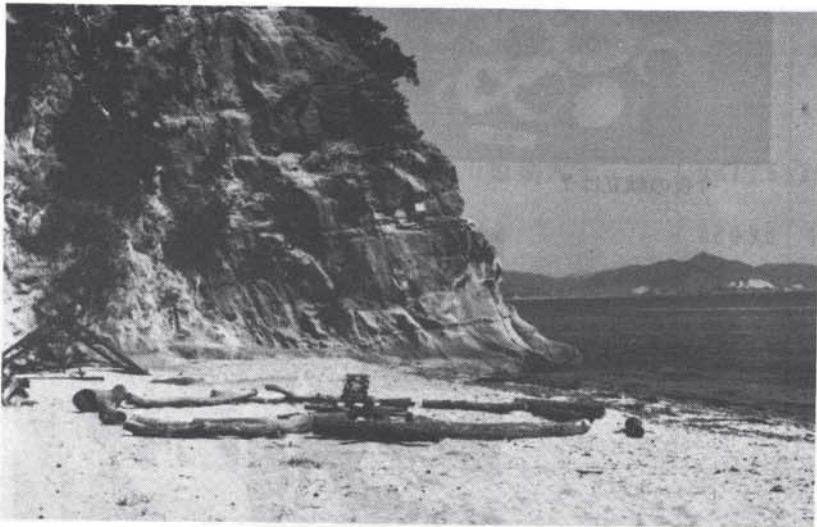
しかし、せっかくこのような機会を与えていただいたのに、これではいけない、せめて自分なりに消化して、この機会を後になって生かすことのできるように持っていかなければ、何のためにライラに参加したのかわからないので、これから私が生活していく時、身近な所から、何か小さなことでもよいから還元していきたいと思います。

最後に、今回のライラに参加させていただいたこと、ロータリークラブの方々に深く感謝申し上げまして、感謝ということにさせて頂きたいと思います。

## 余 島 讃 歌

君は  
紅い太陽が刻々と色を変え乍ら  
屋島の蔭に  
落ちるのを見たか  
瀬戸を渡った汐風が  
何事かを松の林に  
語り過ぎたのを聴いたか  
干潟に蟹を追う  
子ども達の喚声  
ヨットから聞こえる  
若者たちのギター之音  
私は  
砂浜に転がって  
大空に浮かぶ白い雲と  
水平線を走る観光船を見乍ら  
地球の齢を回顧  
とし ふりかえる

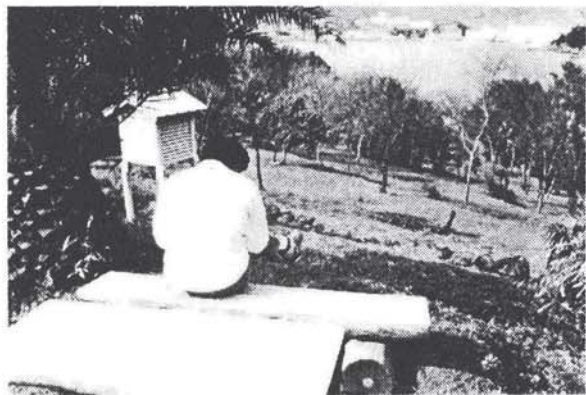
今 井 鎮 雄



# 生活の断片



記念植樹



思索の時間



今夜の献立は？



また会う日まで

# あ と が き

## 第4回 R Y L A

Dean 深 川 純 一

第4回 R Y L A レポートをお届け致します。随分長い間、小生の手許で原稿が眠っていたため、大変遅くなってしまい申し訳ありません。今、秋雨を聴きながらやっと脱稿しました。

毎度のこと乍ら、原稿をお寄せいただいた皆様方どうも有難うございました。

また、テープ起しその他色々と女性カウンセラーの皆様には大変御世話になりました。そして、神戸西 R.C の京極美栄子さんには今年もまたまた最初から最後まで御世話になりました。厚く御礼を申し上げます。

今回で兵庫（268 地区）でのこのレポート編集はひとまず終わります。第4回まで色々と御協力を賜り本当に有難うございました。

次回第5回 R Y L A レポートは、四国（267 地区）の方で編集発刊して下さることになりました。きっと素晴らしいレポートが出来上ることと思います。

では、皆さん、御活躍を祈ります。

いつか、どこかで、また会う日まで♪



昭和57年3月19日～22日

主 催 R.I第267地区  
R.I第268地区

RYLA運営委員会

開催地 西日本青少年野外活動センター  
(神戸YMCA余島センター)

